

指導と評価の年間計画 論理国語

科目	学年	単位数	教科書	副教材
論理国語	3年 文系	2	精選 論理国語 (三省堂)	プレミアムカラー国語便覧 (数研出版) 意味から学ぶ頻出漢字 (第一学習社) 新現代文単語 (いいずな書店)

科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業は予習を前提にして進みます。論理的な文章を読解するために必要な意味調べや音読などを行います。教養力・思考力・表現力</p> <p>②質疑応答、対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークやグループ学習では相手の考えに耳を傾け、比較や分析を通して読みを深めましょう。また、意見文発表やスピーチ、図書館等を利用した調べ学習とプレゼンテーション、感想文、小論文に取り組むこともあります。思考力・表現力・協働力</p> <p>③復習では、授業で学習した重要事項を確認します。語彙などの基礎力の定着度を確認するための小テストを行うことがあります。教養力・思考力・表現力・省察力・志力</p> <p>④国語力の向上だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけましょう。省察力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	思考・判断・表現 「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	主体的に学習に取り組む態度 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表内容の観察 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・発表態度の観察 ○プレゼンテーションの観察 ○各種レポートの点検 ○定期考査 ○課題テスト ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■ 言葉を見つめるⅡ（書く） 夢は何語で見える？ 「対話」の言葉をつくる 「外来語について考える」</p> <p>■ 共生社会を創造する(書く) 母親のための酸素マスク 講演 持続可能な福祉社会への道 「福祉社会」を考える</p> <p>■ 経済について考える(書く) 「私」消え、止まらぬ連鎖 落語の中の経済学 「欲望」と資本主義 経済との関わりから社会的課題 について論じる</p> <p>■ 国際社会を考える(読む) スポーツとナショナリズム 南の貧困／北の貧困 「多文化共生社会」について考える</p>	<p>社会的視点から言葉を考える。 □多言語社会の現実や「可能性」について考える。 □「対話」の言葉の意味や、そのあり方について考える。 □「外来語の氾濫」についてどのように考えるか、短い論文を書く。</p> <p>共生社会の実現に向けた課題を考える。 □いま求められるケアについて考える。 □「福祉社会」に向けての課題と可能性を理解する。 □「福祉社会」を実現するためには何が必要か、また、私たちには何ができるのかについて自分の意見をまとめる。</p> <p>経済との関わりから社会的課題について考える。 □高度消費社会における「欲望」について考える。 □落語「千両みかん」を経済学的な視点で読み直す。 □「欲望の開拓」という視点から資本主義について考察する。 □社会的課題を経済活動と関連させて論じ、課題解決の 方策を発表する。</p> <p>これからの国際社会の課題について考える。 □スポーツとナショナリズムの関係を考察する。 □現代の「貧困」問題を構造的に捉え直す □「多文化共生社会」の構築のためにどのように行動すべきか、資料を読んで考えをまとめる。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこなひ、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<p>■ 心と向き合う(読む) 恐怖とは何か</p> <p>命との関わり – 精神科医として – 「人の心」について考える</p> <p>■ 「リスク社会」を生きる コンコルドの誤り</p> <p>リスク社会論 「リスク社会」について考察する</p> <p>■ 近代・現代社会を考える コンクリートの時代 現代日本の開化</p> <p>学問のすすめ 近代・現代社会を批評する</p>	<p>心についてさまざまな視点から考える。 □人はなぜ「恐怖」を感じるのか、「自我」との関わりから理解する。 □生命と「相互主体に関わる」とはどういうことか考える。 □「人の心」について考えたこと、発見したことを文章にまとめる。</p> <p>「リスク社会」について考える。 □人はなぜ「意思決定」を誤るのか、人間の思考について考える。 □「リスク社会」の分析をとおして現代社会の諸課題を考察する。 □「リスク社会」の観点から、身近な水の問題を考える。</p> <p>現代社会を歴史の中で捉え直す。 □コンクリート建築から「近代」という時代の特徴を考える。 □「現代日本の開化」についての漱石の主張を現代の視点から捉え直す。 □「学問のすすめ」の意義を、「実学」を手がかりに考える。 □現代社会を歴史の中で捉え直し、批評し合う。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこなひ、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 論理国語

科目	学年	単位数	教科書	副教材
論理国語	3年 理系	2	精選 論理国語 (三省堂)	プレミアムカラー国語便覧 (数研出版) 意味から学ぶ頻出漢字 (第一学習社) 新現代文単語 (いいずな書店)

科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業は予習を前提にして進みます。論理的な文章を読解するために必要な意味調べや音読などを行います。教養力・思考力・表現力</p> <p>②質疑応答、対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークやグループ学習では相手の考えに耳を傾け、比較や分析を通して読みを深めましょう。また、意見文発表やスピーチ、図書館等を利用した調べ学習とプレゼンテーション、感想文、小論文に取り組むこともあります。思考力・表現力・協働力</p> <p>③復習では、授業で学習した重要事項を確認します。語彙などの基礎力の定着度を確認するための小テストを行うことがあります。教養力・思考力・表現力・省察力・志力</p> <p>④国語力の向上だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけましょう。省察力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	思考・判断・表現 「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	主体的に学習に取り組む態度 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表内容の観察 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・発表態度の観察 ○プレゼンテーションの観察 ○各種レポートの点検 ○定期考査 ○課題テスト ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■ 言葉を見つめるⅡ（書く） 夢は何語で見える？ 「対話」の言葉をつくる 「外来語について考える」</p> <p>■ 共生社会を創造する(書く) 母親のための酸素マスク 講演 持続可能な福祉社会への道 「福祉社会」を考える</p> <p>■ 経済について考える(書く) 「私」消え、止まらぬ連鎖 落語の中の経済学 「欲望」と資本主義 経済との関わりから社会的課題 について論じる</p> <p>■ 国際社会を考える(読む) スポーツとナショナリズム 南の貧困／北の貧困 「多文化共生社会」について考える</p>	<p>社会的視点から言葉を考える。 □多言語社会の現実や「可能性」について考える。 □「対話」の言葉の意味や、そのあり方について考える。 □「外来語の氾濫」についてどのように考えるか、短い論文を書く。</p> <p>共生社会の実現に向けた課題を考える。 □いま求められるケアについて考える。 □「福祉社会」に向けての課題と可能性を理解する。 □「福祉社会」を実現するためには何が必要か、また、私たちには何ができるのかについて自分の意見をまとめる。</p> <p>経済との関わりから社会的課題について考える。 □高度消費社会における「欲望」について考える。 □落語「千両みかん」を経済学的な視点で読み直す。 □「欲望の開拓」という視点から資本主義について考察する。 □社会的課題を経済活動と関連させて論じ、課題解決の 方策を発表する。</p> <p>これからの国際社会の課題について考える。 □スポーツとナショナリズムの関係を考察する。 □現代の「貧困」問題を構造的に捉え直す □「多文化共生社会」の構築のためにどのように行動すべきか、資料を読んで考えをまとめる。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこなひ、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<p>■ 心と向き合う(読む) 恐怖とは何か</p> <p>命との関わり – 精神科医として – 「人の心」について考える</p> <p>■ 「リスク社会」を生きる コンコルドの誤り</p> <p>リスク社会論</p> <p>「リスク社会」について考察する</p> <p>■ 近代・現代社会を考える コンクリートの時代 現代日本の開化</p> <p>学問のすすめ 近代・現代社会を批評する</p>	<p>心についてさまざまな視点から考える。 □人はなぜ「恐怖」を感じるのか、「自我」との関わりから理解する。 □生命と「相互主体に関わる」とはどういうことか考える。 □「人の心」について考えたこと、発見したことを文章にまとめる。</p> <p>「リスク社会」について考える。 □人はなぜ「意思決定」を誤るのか、人間の思考について考える。 □「リスク社会」の分析をとおして現代社会の諸課題を考察する。 □「リスク社会」の観点から、身近な水の問題を考える。</p> <p>現代社会を歴史の中で捉え直す。 □コンクリート建築から「近代」という時代の特徴を考える。 □「現代日本の開化」についての漱石の主張を現代の視点から捉え直す。 □「学問のすすめ」の意義を、「実学」を手がかりに考える。 □現代社会を歴史の中で捉え直し、批評し合う。</p>	<p>単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこなひ、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 文学国語

科目	学年	単位数	教科書	副教材
文学国語	3年	1	精選 文学国語 (三省堂)	プレミアムカラー国語便覧(数研出版) 意味から学ぶ頻出漢字(第一学習社) 新現代文単語(いっずな書店)

科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。1 性格 2 目標 第4節 文学国語 179 4 文学国語</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業は予習を前提にして進みます。文学的な文章を読解するために必要な意味調べや音読などを行います。教養力・思考力・表現力</p> <p>②質疑応答、対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークやグループ学習では相手の考えに耳を傾け、比較や分析を通して読みを深めましょう。また、意見文発表やスピーチ、図書館等を利用した調べ学習とプレゼンテーション、感想文などに取り組むこともあります。思考力・表現力・協働性</p> <p>③復習では、授業で学習した重要事項を確認します。語彙などの基礎力の定着度を確認するための小テストを行うことがあります。教養力・思考力・表現力・省察力・志力</p> <p>④国語力の向上だけでなく、他の教科の理解力の基盤となる「もの」の見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりするためには、幅広いジャンルの読書が必須です。本校の図書館などを十分活用し、読書習慣を身につけましょう。省察力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働性 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>「書くこと」「読むこと」の領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表内容の観察 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・発表態度の観察 ○プレゼンテーションの観察 ○各種レポートの点検 ○定期考査 ○課題テスト ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 読むこと・書くこと・語ること 本を読むと路に迷う 想像し物語ること ■ 小説(一) 鞆 ■ 詩歌 永訣の朝 渡り鳥－俳句十五句 ■ 文学の共同制作 連歌の愉しみ ヤングの連句 －半歌仙『赤城おろし』の巻 連詩をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> □ 本を読むことの「幸福」について考える。 □ 「想像力」のはたらきを理解する。 □ 「私」の視点で描かれていることに留意して登場人物の関係を捉える。 □ 「鞆」の象徴的意味について考える。 □ 「鞆」の意味を考えるを通して、自分のものの見方、考え方を深める。 □ 表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める。 □ それぞれの俳句に詠まれた情景や感動の中心を理解する。 □ 文学の共同制作の意義を考える。 □ 連句の詠み方・進め方を実例を通して理解する。 □ 連詩をつくるを通して、文学の共同制作の意義を理解する。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小説(二) 夏の花 死者の声を運ぶ小舟 ■ 翻訳の言葉 『雪国』の謎－夜の底とは何か 涙の贈り物 ■ 小説(三) 檸檬 ■ 評論 陰翳礼讃 文体の持つ力 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「私」が目撃した原爆投下の光景を、時系列に即して理解する。 □ 戦争の記憶を語り継ぐことの意義を考える。 □ 優れた翻訳について考える。 □ 文体の特徴や表現の特色に注意して作品を読み、翻訳小説の魅力について考える。 □ 事物の描写に着目して、「私」の心情を理解する。 □ 作品の舞台・時代背景を調べ、作品への理解を深める。 □ 文体の特色を理解する。 □ 近代小説の文体の歴史的変遷について理解を深める。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①～③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典探究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
古典探究	3年 文系	3	高等学校 古典探究 (数研出版)	プレミアムカラー国語便覧(数研出版) 体系古典文法(数研出版) 古文単語 330(いづな書店) 新明説漢文(尚文出版)

科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>		
学習活動	<p>①【授業】音読、朗読、暗唱で古典作品の持つリズム、テンポを体感し、身につけます。歴史的仮名遣いや、古典特有の語彙、古典文法、訓読のきまり、漢文句法などの読解のための基礎的事項を、小テスト等で習得します。基礎的事項の習得と並行して、作品の解釈を講義、質疑応答形式で学習していきます。また、作品・作者などについてグループや個人で調べて発表するほか、レポートを作成することもあります。教養力・思考力・表現力・協働力</p> <p>②【家庭学習】現代文分野以上に家庭学習での予習が大切になります。古文は、音読、本文の視写、品詞分解、現代語訳を行います。漢文は、音読、書き下し文、訓点の記入、現代語訳を行います。辞書をしっかり活用して解釈しましょう。授業内容の整理のためにその日のうちに復習し、予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。また、自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。長期休業中にもプリントやワークブックの課題があり、休み明けには課題テストや実力テストで自学自習の成果を確認します。教養力・思考力・表現力・省察力・志力</p> <p>※定期考査、実力テストに向けて 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。思考力・表現力・省察力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○課題テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 随筆 枕草子 ■ 日記文学 蜻蛉日記 和泉式部日記 ■ 物語 源氏物語 ■ 歴史物語 大鏡 ■ 評論 無名草子 無名抄 ■ 近世随筆 玉勝間 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読みとる。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解して、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できる。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して内容をとらえる。 <input type="checkbox"/> 修辞法を理解し、和歌に託された心情を理解する。 <input type="checkbox"/> 描かれた場面や情景、登場人物の心情を考え、理解する。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分の考えを深める。 	単元ごとに「学習」と「言語活動」をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 逸話 知音 梁上君子 三横 ■ 小説 売鬼 人面桃花 酒虫 ■ 探究の扉 義訓と振り仮名 ■ 史伝 史記（伯夷・叔齊） 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 文中に用いられている語の文脈における意味を正確にとらえて、文章の内容を的確に読みとる。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 <input type="checkbox"/> 文章の主題や筆者の主張を読みとる。 <input type="checkbox"/> 義訓について理解し、言葉の変化や、文化の特質・関係を知る。 	
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日記文学 紫式部日記 十六夜日記 ■ 物語 住吉物語 ■ 説話 古今著聞集 ■ 評論 風姿花伝 ■ 近世小説 雨月物語 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読みとる。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解して、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できる。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して内容をとらえる。 <input type="checkbox"/> 修辞法を理解し、和歌に託された心情を理解する。 <input type="checkbox"/> 描かれた場面や情景、登場人物の心情を考え、理解する。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分の考えを深める。 	単元ごとに「学習」と「言語活動」をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 史伝 史記（廉頗・藺相如） ■ 文章 捕蛇者説 師説 ■ 古体詩 詩経大序 石壕吏 長恨歌 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 <input type="checkbox"/> 構成・展開をとらえる。 <input type="checkbox"/> 作品に描かれた人物、心情、情景などを読み味わう。 <input type="checkbox"/> 文章の主題や筆者の主張を読みとる。 <input type="checkbox"/> 漢詩にうたわれている情景と心情とを関連付けてとらえる。 <input type="checkbox"/> 漢詩のきまりを理解する。 	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 古典探究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
古典探究	3年 理系	2	高等学校 古典探究 (数研出版)	プレミアムカラー国語便覧(数研出版) 体系古典文法(数研出版) 古文単語 330(いづな書店) 新明説漢文(尚文出版)

科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>		
学習活動	<p>①【授業】音読、朗読、暗唱で古典作品の持つリズム、テンポを体感し、身につけます。歴史的仮名遣いや、古典特有の語彙、古典文法、訓読のきまり、漢文句法などの読解のための基礎的事項を、小テスト等で習得します。基礎的事項の習得と並行して、作品の解釈を講義、質疑応答形式で学習していきます。また、作品・作者などについてグループや個人で調べて発表するほか、レポートを作成することもあります。教養力・思考力・表現力・協働力</p> <p>②【家庭学習】現代文分野以上に家庭学習での予習が大切になります。古文は、音読、本文の視写、品詞分解、現代語訳を行います。漢文は、音読、書き下し文、訓点の記入、現代語訳を行います。辞書をしっかり活用して解釈しましょう。授業内容の整理のためにその日のうちに復習し、予習→授業→復習のサイクルを習慣化することが大切です。また、自学自習用のワークブックを課題として定期的に提出してもらいます。長期休業中にもプリントやワークブックの課題があり、休み明けには課題テストや実力テストで自学自習の成果を確認します。教養力・思考力・表現力・省察力・志力</p> <p>※定期考査、実力テストに向けて 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。思考力・表現力・省察力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○受講・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○課題テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○受講・発表態度の観察 ○課題の点検

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日記文学 蜻蛉日記 和泉式部日記 ■ 物語 源氏物語 ■ 歴史物語 大鏡 ■ 評論 無名抄 ■ 近世随筆 玉勝間 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読みとる。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解して、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できる。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して内容をとらえる。 <input type="checkbox"/> 修辞法を理解し、和歌に託された心情を理解する。 <input type="checkbox"/> 描かれた場面や情景、登場人物の心情を考え、理解する。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分の考えを深める。 	単元ごとに「学習」と「言語活動」をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 逸話 知音 ■ 小説 売鬼 人面桃花 ■ 史伝 史記（伯夷・叔齊） 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 漢文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 文中に用いられている語の文脈における意味を正確にとらえて、文章の内容を的確に読みとる。 <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 <input type="checkbox"/> 文章の主題や筆者の主張を読みとる。 	
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日記文学 十六夜日記 ■ 物語 住吉物語 ■ 評論 風姿花伝 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 古文の調子を味わいながら音読する。 <input type="checkbox"/> 古典文法を理解し、その知識をもとに本文の内容を正確に読みとる。 <input type="checkbox"/> 敬語法を理解して、敬語の種類・敬意の主体・敬意の対象が説明できる。 <input type="checkbox"/> 省略されている主語や目的語を把握して内容をとらえる。 <input type="checkbox"/> 修辞法を理解し、和歌に託された心情を理解する。 <input type="checkbox"/> 描かれた場面や情景、登場人物の心情を考え、理解する。 <input type="checkbox"/> 古人の考え方、生き方にふれ、自分の考えを深める。 	単元ごとに「学習」と「言語活動」をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 史伝 史記（廉頗・藺相如） ■ 文章 師説 ■ 古体詩 詩経大序 長恨歌 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 句法を理解し、本文の内容を正確に把握する。 <input type="checkbox"/> 構成・展開をとらえる。 <input type="checkbox"/> 作品に描かれた人物、心情、情景などを読み味わう。 <input type="checkbox"/> 文章の主題や筆者の主張を読みとる。 <input type="checkbox"/> 漢詩にうたわれている情景と心情とを関連付けてとらえる。 <input type="checkbox"/> 漢詩のきまりを理解する。 	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 現代文精講

科目	学年	単位数	教科書	副教材
現代文精講	3年	1 (後期)		プレミアムカラー国語便覧（数研出版） 新現代文単語（いづな書店）

科目の目標	現代社会で通用する語彙力と論理的思考力を身につけさせるとともに、社会への視野を広げて自己の考えを的確に表現する力を身につけさせる。		
学習活動	<p>①授業では、論理国語、文学国語で学んだ内容を、より発展的、応用的に学習します。近代以降の様々な文章を扱いますが、論理的な文章（評論）と文学的な文章（小説）では、論理的な文章をより多く取り上げます。言語論、文化論、芸術論、社会科学論、自然科学論等、多くの分野を扱うことによって、知的好奇心を刺激し、幅広い教養を身につけると同時に、現代社会に目を向ける姿勢を養います。演習（記述）が中心となり、複数資料を読解する力も養います。講義、質疑応答形態の他、輪読形態やグループでのディスカッション、個人やグループでのプレゼンテーション等の形態を取り入れます。教材に関連する意見文や小論文を作成することもあります。教養力・思考力・表現力</p> <p>②家庭学習では、読解のスピードを付けるため、予習では時間を設定し、時間内に解答する訓練をしましょう。漢字や語句の意味調べや要約・あらすじの記述などもあります。授業後はノートを整理し、ポイント事項の復習をします。幅広いジャンルの文章に触れるために、自学自習用の問題集の提出が定期的にあります。教養力・思考力・表現力・省察力</p> <p>③【読書のすすめ】すべての教科の理解力の基盤となるものの見方や感じ方、考え方を広げ深めるためには、幅広いジャンルの読書が必須です。読書習慣を身につけることによって、文章に読み慣れると同時に、広範な知識や情報を得ることを心がけましょう。教養力・思考力・省察力・志力</p> <p>④【定期考査、実力テストの活用】 定期考査は、授業で培った基礎学力を定着させるために、また、実力テストは学習してきた基礎学力をさらに発展させて使うために大切なテストです。しっかり、準備して受けるとともに、考査後はわからなかったところを中心に必ず復習しましょう。省察力・志力</p>		
未来開拓力	・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力：論理的に考え、批判に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。	「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	○定期考査 ○課題テスト ○小テスト ○授業・発表内容の観察 ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○プレゼンテーションの観察 ○各種レポートの点検 ○定期考査 ○課題テスト ○課題の点検	○授業・発表態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○自己評価

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
後	<ul style="list-style-type: none"> ■ 論理的文章の読解と批評(一) ■ 問題演習 (記述) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 文章構成と論理展開を理解する。 □ 各段落の要約と全体要約を行い、論拠に基づく結論(筆者の主張)を正確に把握する論理的思考力を身に付ける。 □ 同じテーマについて書かれた文章を読み比べることによって、テーマを客観的にとらえ、相対化する姿勢を身に付ける。 	单元ごとに「学習活動」の①②をそれぞれおこない、单元を通じて5つの観点について評価をおこなう。
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 論理的文章の読解と批評(二) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 本文の展開に即して筆者の主張を理解し、要約できる。 □ 的確な論理の展開や論拠、具体例など、読者を納得させる論述の方法を理解する。 □ 複数資料を活用し、必要な情報を文章にまとめることができる。 	
期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文学的文章の読解と鑑賞 ■ 問題演習 (記述) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 登場人物の造形や情景描写、比喩を把握し、人物の心情の変化や生き方について理解する。 □ 話し合いや鑑賞文の作成を通して登場人物の生き方や作品の表現の仕方について読み味わうと同時に、工夫された文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現に役立てる姿勢を身に付ける。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 論理的文章の読解と批評(三) ■ 問題演習 (記述) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 筆者の主張を的確に把握し、提起された問題をさまざまな角度から吟味し、批評できる。 □ 筆者の主張を正確に踏まえたうえで、自分の意見を論述できる。 □ 自分の論拠の客観性および論拠と結論の妥当性を分析する力を身に付ける。 □ 複数資料を活用し、必要な情報を文章にまとめることができる。 	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理歴史（地理探究）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
地理探究	3	3	地理探究(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2024(帝国書院) データブック オブ・ザ・ワールド 2025(二宮書店)

科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。		
学習活動	① 授業は単元ごとに問いを設け、世界の自然と人間生活への理解を深めていきます。 教養力・思考力・志力		
	② 白地図や図表などを用いた作業学習を行い、諸事象に対する空間的な見方を養います。 思考力・表現力・協働力		
	③ テストの振り返りや問題集を用いた演習を通じて知識や思考力を身につけます。 教養力・思考力・省察力		
	④ iPad やコンピュータなど情報機器を活用した、情報収集や GIS 活用能力を養います。 教養力・表現力・協働力・省察力		
※ 日頃より、身近な地域の姿や国内外の自然や社会についてのテーマ、災害や防災に関心を持っておくことが、地理学習の深化につながります。			
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしたか。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚することができたか。	○世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを解決する取り組みが行えたか。 ○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができたか。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できたか。 ○地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすること
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	1.地域区分	地域区分について理解し、現代世界が自然、文化、国家群、経済などの指標によって様々な区分ができることを習得させ、それぞれの区分からわかる地域の特徴や複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察させる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	2.現代世界の諸地域 ・中国 ・朝鮮半島 ・東南アジア ・南アジア ・西アジア・中央アジア ・北アフリカ・サブサハラアフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オーストラリア ・ニュージーランドと島嶼国	各国・地域について、歴史的背景や経済体制、政策、工業、人口、民族、自然、農牧業、資源・エネルギー、貿易、投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめ世界各国に与える影響や、今後構築すべきより良い国際関係について探究させる。	
	3.現代日本に求められる国土像	今までの学習を基にして、自然災害に強い国土、変化する産業と持続可能な成長、人口減少社会の活性化、多文化共生社会の実現に関して、将来の日本の国土像について、日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに発見させ、その課題を多面的・多角的に考察、探究させる。探究を行う際は、まず自ら発見した課題を解決するための方法を身につけさせる。地理的スキルを活かして資料を作成させるとともに、第I編で学んだ基本的な知識や、第II編で学んだ世界各地のさまざまな事例を活用して考察し、課題解決のための提言を行わせることによって、日本がかかえる地理的課題の解決の方向性や将来の国土像について展望させる。	
後 期	4.世界地理研究	世界各地で発生したあるいは発生している事象について、地理的な見方・考え方を働かせた探究活動を通じ、世界地理への興味関心を深める。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	5.日本地理研究	日本各地で発生したあるいは発生している事象について、地理的な見方・考え方を働かせた探究活動を通じ、世界地理への興味関心を深める。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 日本史研究a

科目	学年	単位数	教科書	副教材
日本史研究a	3年	4	日本史探究詳説日本史（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 日本史重要語句 Check List2025年度版（啓隆社）

科目の目標	日本の歴史に関して、自ら課題を設定し、探究的な活動を行う。情報リテラシーを駆使して自ら史資料を探し出し、読み解く活動を通じて幅広い教養、課題設定力、読解力を養うとともに、課題解決力を身につける。		
学習活動	<p>①疑問を深め、探究していく課題を生徒自らが設定する。思考力・表現力・省察力</p> <p>②設定した課題を探究していくために必要な史資料を探す。図書館、インターネットを活用する。教養力・思考力</p> <p>③協働的な活動により、史資料を読解していき、探究課題への答えを探し、まとめ、プレゼンテーションをおこなう。表現力・志力</p> <p>※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。志力</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み

年間指導計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	前近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代，地域を対象に，自ら課題を設定して探究する活動を通じ，歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代，地域を対象に，様々な史資料に触れ，読解し，考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代，地域を対象に，課題解決の方策を考え，その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①，②，③をそれぞれおこない，単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代，地域を対象に，自ら課題を設定して探究する活動を通じ，歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代，地域を対象に，様々な史資料に触れ，読解し，考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代，地域を対象に，課題解決の方策を考え，その過程や結果を適切に表現することができる。	
後 期	現代史資料探究	<input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代，地域を対象に，自ら課題を設定して探究する活動を通じ，歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代，地域を対象に，様々な史資料に触れ，読解し，考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代，地域を対象に，課題解決の方策を考え，その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①，②，③をそれぞれおこない，単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 日本史研究β

科目	学年	単位数	教科書	副教材
日本史研究β	3年	3	日本史探究詳説日本史（山川出版社）	新詳日本史（浜島書店） 日本史重要語句 Check List2025年度版（啓隆社）

科目の目標	日本の歴史に関して、自ら課題を設定し、探究的な活動を行う。情報リテラシーを駆使して自ら史資料を探し出し、読み解く活動を通じて幅広い教養、課題設定力、読解力を養うとともに、課題解決力を身につける。		
学習活動	<p>①疑問を深め、探究していく課題を生徒自らが設定する。思考力・表現力・省察力</p> <p>②設定した課題を探究していくために必要な史資料を探す。図書館、インターネットを活用する。教養力・思考力</p> <p>③協働的な活動により、史資料を読解していき、探究課題への答えを探し、まとめ、プレゼンテーションをおこなう。表現力・志力</p> <p>※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。志力</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	前近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代，地域を対象に，自ら課題を設定して探究する活動を通じ，歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代，地域を対象に，様々な史資料に触れ，読解し，考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代，地域を対象に，課題解決の方策を考え，その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①，②，③をそれぞれおこない，単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代，地域を対象に，自ら課題を設定して探究する活動を通じ，歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代，地域を対象に，様々な史資料に触れ，読解し，考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代，地域を対象に，課題解決の方策を考え，その過程や結果を適切に表現することができる。	
後 期	現代史資料探究	<input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代，地域を対象に，自ら課題を設定して探究する活動を通じ，歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代，地域を対象に，様々な史資料に触れ，読解し，考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代，地域を対象に，課題解決の方策を考え，その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①，②，③をそれぞれおこない，単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 世界史研究a

科目	学年	単位数	教科書	副教材
世界史研究 a	3年	4	世界史探究 詳説世界史 (山川出版社)	グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)

科目の目標	世界の歴史に関して、自ら課題を設定し、探究的な活動を行う。情報リテラシーを駆使して自ら史資料を探し出し、読み解く活動を通じて幅広い教養、課題設定力、読解力を養うとともに、課題解決力を身につける。		
学習活動	①疑問を深め、探究していく課題を生徒自らが設定する。 思考力・表現力・省察力 ②設定した課題を探究していくために必要な史資料を探す。図書館、インターネットを活用する。 教養力・思考力 ③協働的な活動により、史資料を読解していき、探究課題への答えを探し、まとめ、プレゼンテーションをおこなう。 表現力・志力 ※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。 志力 ※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 志力		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・理解
	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
評価方法	○授業状況の観察 ○リフレクションシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○リフレクションシート ○定期考査	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	前近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	
後期	現代史資料探究	<input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 世界史研究β

科目	学年	単位数	教科書	副教材
世界史研究β	3年	3	世界史探究 詳説世界史 (山川出版社)	グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)

科目の目標	世界の歴史に関して、自ら課題を設定し、探究的な活動を行う。情報リテラシーを駆使して自ら史資料を探し出し、読み解く活動を通じて幅広い教養、課題設定力、読解力を養うとともに、課題解決力を身につける。		
学習活動	<p>①疑問を深め、探究していく課題を生徒自らが設定する。思考力・表現力・省察力</p> <p>②設定した課題を探究していくために必要な史資料を探す。図書館、インターネットを活用する。教養力・思考力</p> <p>③協働的な活動により、史資料を読解していき、探究課題への答えを探し、まとめ、プレゼンテーションをおこなう。表現力・志力</p> <p>※ 書籍やテレビ、映画などを通じて歴史に親しむことが、歴史を理解する近道になります。いろいろな場面において歴史に触れてみましょう。志力</p> <p>※ 日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。志力</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	主体的に学習に取り組む態度 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	思考・判断・表現 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	知識・理解 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
評価方法	○授業状況の観察 ○リフレクションシート ○課題への取組	○授業状況の観察 ○リフレクションシート ○定期考査	○課題への取組 ○定期考査

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	前近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 前近代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	近代史資料探究	<input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 近代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	
後期	現代史資料探究	<input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、自ら課題を設定して探究する活動を通じ、歴史への関心を深める。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、様々な史資料に触れ、読解し、考察を深めることができる。 <input type="checkbox"/> 現代史の様々な時代、地域を対象に、課題解決の方策を考え、その過程や結果を適切に表現することができる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理歴史（地理研究a）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
地理研究a	3	4	地理探究(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2024(帝国書院) データブック オブ・ザ・ワールド 2025(二宮書店)

科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。		
学習活動	① 授業は単元ごとに問いを設け、世界の自然と人間生活への理解を深めていきます。 教養力・思考力・志力 ② 白地図や図表などを用いた作業学習を行い、諸事象に対する空間的な見方を養います。 思考力・表現力・協働力 ③ テストの振り返りや問題集を用いた演習を通じて知識や思考力を身につけます。 教養力・思考力・省察力 ④ iPad やコンピュータなど情報機器を活用した、情報収集や GIS 活用能力を養います。 教養力・表現力・協働力・省察力 ※ 日頃より、身近な地域の姿や国内外の自然や社会についてのテーマ、災害や防災に関心を持っておくことが、地理学習の深化につながります。		
未来開拓力	・ 教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・ 思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・ 表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・ 協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・ 志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・ 省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする事ができたか。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについて自覚することができたか。	○世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを解決する取り組みが行えたか。 ○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができたか。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できたか。 ○地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすること
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	1.地域区分	地域区分について理解し、現代世界が自然、文化、国家群、経済などの指標によって様々な区分ができることを習得させ、それぞれの区分からわかる地域の特徴や複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察させる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	2.現代世界の諸地域 ・中国 ・朝鮮半島 ・東南アジア ・南アジア ・西アジア・中央アジア ・北アフリカ・サブサハラアフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オーストラリア ・ニュージーランドと島嶼国	各国・地域について、歴史的背景や経済体制、政策、工業、人口、民族、自然、農牧業、資源・エネルギー、貿易、投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめ世界各国に与える影響や、今後構築すべきより良い国際関係について探究させる。	
	3.現代日本に求められる国土像	今までの学習を基にして、自然災害に強い国土、変化する産業と持続可能な成長、人口減少社会の活性化、多文化共生社会の実現に関して、将来の日本の国土像について、日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに見せ、その課題を多面的・多角的に考察、探究させる。探究を行う際は、まず自ら発見した課題を解決するための方法を身につけさせる。地理的技能を活かして資料を作成させるとともに、第I編で学んだ基本的な知識や、第II編で学んだ世界各地のさまざまな事例を活用して考察し、課題解決のための提言を行わせることによって、日本がかかえる地理的課題の解決の方向性や将来の国土像について展望させる。	
後 期	4.世界地理研究	世界各地で発生したあるいは発生している事象について、地理的な見方・考え方を働かせた探究活動を通じ、世界地理への興味関心を深める。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	5.日本地理研究	日本各地で発生したあるいは発生している事象について、地理的な見方・考え方を働かせた探究活動を通じ、世界地理への興味関心を深める。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 地理歴史（地理研究β）

科目	学年	単位数	教科書	副教材
地理研究β	3	3	地理探究(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2024(帝国書院) データブック オブ・ザ・ワールド 2025(二宮書店)

科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。		
学習活動	① 授業は単元ごとに問いを設け、世界の自然と人間生活への理解を深めていきます。 教養力・思考力・志力 ② 白地図や図表などを用いた作業学習を行い、諸事象に対する空間的な見方を養います。 思考力・表現力・協働力 ③ テストの振り返りや問題集を用いた演習を通じて知識や思考力を身につけます。 教養力・思考力・省察力 ④ iPad やコンピュータなど情報機器を活用した、情報収集や GIS 活用能力を養います。 教養力・表現力・協働力・省察力 ※ 日頃より、身近な地域の姿や国内外の自然や社会についてのテーマ、災害や防災に関心を持っておくことが、地理学習の深化につながります。		
未来開拓力	・ 教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・ 思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・ 表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・ 協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・ 志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・ 省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	○よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしたか。 ○多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚することができたか。	○世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを解決する取り組みが行えたか。 ○地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができたか。	○地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できたか。 ○地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすること
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	1.地域区分	地域区分について理解し、現代世界が自然、文化、国家群、経済などの指標によって様々な区分ができることを習得させ、それぞれの区分からわかる地域の特徴や複数の区分によって把握できる地域の特徴を考察させる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	2.現代世界の諸地域 ・中国 ・朝鮮半島 ・東南アジア ・南アジア ・西アジア・中央アジア ・北アフリカ・サブサハラアフリカ ・ヨーロッパ ・ロシア ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ ・オーストラリア ・ニュージーランドと島嶼国	各国・地域について、歴史的背景や経済体制、政策、工業、人口、民族、自然、農牧業、資源・エネルギー、貿易、投資・援助といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを経済成長と関連づけながら地域的特色を考察・理解させ、日本をはじめ世界各国に与える影響や、今後構築すべきより良い国際関係について探究させる。	
	3.現代日本に求められる国土像	今までの学習を基にして、自然災害に強い国土、変化する産業と持続可能な成長、人口減少社会の活性化、多文化共生社会の実現に関して、将来の日本の国土像について、日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに発見させ、その課題を多面的・多角的に考察、探究させる。探究を行う際は、まず自ら発見した課題を解決するための方法を身につけさせる。地理的スキルを活かして資料を作成させるとともに、第I編で学んだ基本的な知識や、第II編で学んだ世界各地のさまざまな事例を活用して考察し、課題解決のための提言を行わせることによって、日本がかかえる地理的課題の解決の方向性や将来の国土像について展望させる。	
後 期	4.世界地理研究	世界各地で発生したあるいは発生している事象について、地理的な見方・考え方を働かせた探究活動を通じ、世界地理への興味関心を深める。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
	5.日本地理研究	日本各地で発生したあるいは発生している事象について、地理的な見方・考え方を働かせた探究活動を通じ、世界地理への興味関心を深める。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 政治・経済

科目	学年	単位数	教科書	副教材
政治・経済	3年	3	高等学校 政治・経済（第一学習社）	最新図説政経 2026（浜島書店）

科目の目標	<p>社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p> <p>(2) 国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や、政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</p>		
学習活動	<p>① 単元ごとに課題、問いを設定し、教科書、図説などを用いて、現代社会に関する諸事象について思考・判断し、その結果を表現しながら学習していく。思考力・表現力</p> <p>② 復習により基本的知識の定着をはかる必要があることから、単元ごとに日頃のプリント内容を反芻するなどして、また問題を繰り返して知識の定着をはかる。教養力</p> <p>③ 日頃より新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持つように心がけ、現代社会に生きる一員として社会に出た時に必要となる、市民的資質を高めることを目指す。志力・省察力</p> <p>これら 3 つの活動は、それぞれに以下の図のように繋がっており、市民的資質を持って、社会に出て市民として求められる態度、行動を育てることを目標としている。</p> <div style="text-align: center;"> </div>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会の課題について考察し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想したり、その妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断したり、表現したりしている。	よりよい社会の実現のために、国民権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。また、知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート ○課題への取り組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第1編 現代日本の政治と経済 A 現代日本の政治 (1) 民主政治の基本原則 (2) 日本国憲法の基本原則 (3) 日本の政治機構 (4) 現代政治の特質と課題 B 現代日本の経済 (1) 現代の資本主義経済 (2) 現代経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・政治の役割や、権力分立、「法の支配」が民主主義に不可欠であることについて理解する。 ・日本国憲法の特徴について理解するとともに、憲法に関する各種議論について考察する。 ・国会・内閣・裁判所の勢力均衡や地方自治、各組織の役割について理解するとともに、各機関に関わる課題や議論について考察する。 ・政党政治・選挙・世論と政治参加について理解するとともに、それぞれの意義や抱える課題について考察する。 ・経済体制にはどのようなものがあるか理解し、今日の資本主義経済にはどのような課題があるか考察する。 ・家計および企業の経済活動、市場経済、金融、財政など現代経済のしくみについて理解するとともに、課題について考察する。 	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③にそって、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
後 期	(3) 日本経済の発展と現状 (4) 福祉社会と日本経済の課題 C 現代日本の諸課題 第2編 グローバル化する国際社会 A 現代の国際経済 (1) 国際政治のしくみ (2) 複雑化する国際政治と日本 B 現代の国際経済 (1) 国民経済と国際経済 (2) 世界経済の現状と課題 C 国際社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の日本経済の変遷と産業構造の変化について理解し、その過程でとられた経済政策が与えた影響や抱える課題について考察する。 ・公害と環境保全、農業・食料問題、中小企業の現状、情報化の進展と社会の変化、消費者問題、雇用と労働問題、社会保障と福祉について理解するとともに、抱える諸課題について考察する。 ・少子高齢社会、防災と安全・安心な社会等、現代日本の諸課題についてこれまでの学習をもとに考察を深める。 ・国際政治の特質、国際連合の役割について理解するとともに、課題について考察する。 ・戦後の国際関係の展開、地域主義の動き、軍縮の動向などについて理解するとともに、抱える課題、日本の役割について考察する。 ・貿易と国際収支、国際通貨体制の変遷、自由貿易の進展、新興経済諸国の現状などについて理解するとともに、課題について考察する。 ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・貧困・感染症問題について理解し、課題や克服のあり方等について考察する。 ・グローバル化にともなう社会変容、地球温暖化、民族問題と紛争の解決、持続可能な社会の実現など、国際社会の諸課題について理解を深め、課題克服のために何が必要か、自分に何ができるか、考察する。 	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③にそって、単元を通じて3つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅱ	3年 文系	2	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	基礎徹底演習 (Learn-S) PLAN100 (数研出版) ベストレクション大学入試共通テスト (実教出版) チャート式解 法と演習 (数研出版)

科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 教養力・思考力</p> <p>②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力</p> <p>③チャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。思考力・表現力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式と証明、複素数及び図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理することができる。 	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数的関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。 	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を三角関数や指数関数・対数関数または微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>【数学Ⅰ分野】</p> <p>第1章 数と式</p> <p>1 式の計算</p> <p>2 実数</p> <p>3 1次不等式</p> <p>第2章 集合と命題</p> <p>第3章 2次関数</p> <p>1 2次関数とグラフ</p> <p>2 2次関数の値の変化</p> <p>3 2次方程式と2次不等式</p> <p>第4章 図形と計量</p> <p>1 三角比</p> <p>2 三角形への応用</p> <p>第5章 データの分析</p> <p>(基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)</p> <p>【数学Ⅱ分野】</p> <p>第1章 式と証明</p> <p>1 式と計算</p> <p>2 等式・不等式の証明</p> <p>第2章 複素数と方程式</p> <p>1 複素数と2次方程式の解</p> <p>2 高次方程式</p> <p>第3章 図形と方程式</p> <p>1 点と直線</p> <p>2 円</p> <p>3 軌跡と領域</p> <p>第4章 三角関数</p> <p>1 三角関数</p> <p>2 加法定理</p> <p>第5章 指数関数と対数関数</p> <p>1 指数関数</p> <p>2 対数関数</p> <p>第6章 微分法と積分法</p> <p>1 微分係数と導関数</p> <p>2 関数の値の変化</p> <p>3 積分法</p> <p>(基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)</p>	<p><input type="checkbox"/>実数の性質を理解して、大小関係と数直線に関連づけて考えることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>不等式の意味を理解し、絶対値の意味から絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>命題の意味を理解し、命題の証明するために様々な方法を適切に用いることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>2次関数のグラフを利用して最大値・最小値を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>三角比の定義を理解し、三角比の関係を利用して応用問題を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>正四面体の体積の求め方を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>対称式を基本対称式で表し、式の値を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>高次方程式が解aをもつことを、式を用いて表現できる。</p> <p><input type="checkbox"/>$F(x, y) + kG(x, y) = 0$の形を利用して、2直線の交点を通る直線の方程式を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>線形計画法では(x, y)の1次式$=k$において、この式が直線を表すことを利用できる。</p> <p><input type="checkbox"/>$-1 \leq \sin\theta \leq 1$などに注意して、変数のおき換えによって三角関数を含む関数の最大・最小を考察できる。</p> <p><input type="checkbox"/>$a^x > 0$に注意して、おき換えによって指数方程式・指数不等式を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。</p> <p><input type="checkbox"/>3次関数のグラフとx軸とで囲まれた2つの部分の面積の和を求めることができる。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	問題演習（共通テスト形式）	（各分野の内容を確認するとともに、マークシート形式問題に慣れる。）	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学Ⅲ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学Ⅲ	3年	2	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	新課程クリアー数学Ⅲ (数研出版) チャート式解法と演習数学ⅢC (数研出版)

科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力</p> <p>②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力</p> <p>③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。思考力・表現力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりすることができる。 ・いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第3章 微分法 1 導関数 2 いろいろな関数の導関数	<input type="checkbox"/> 微分係数、微分可能の定義と、その図形的意味を理解する。 <input type="checkbox"/> 導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。 <input type="checkbox"/> 三角関数、対数関数、指数関数の導関数を理解し、それらを含む種々の関数の導関数を計算できる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第4章 微分法の応用 1 導関数の応用 2 いろいろな応用	<input type="checkbox"/> 種々の接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 平均値の定理を利用して、不等式を証明する方法を理解している。 <input type="checkbox"/> 関数の増減、凹凸、変曲点、漸近線、定義域、 $x \rightarrow \pm\infty$ のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 方程式 $f(x) = a$ の実数解の個数を、関数 $y = f(x)$ のグラフと直線 $y = a$ の共有点の個数に読み替えて考察できる。 <input type="checkbox"/> 直線上や平面上を運動する点の速度、速さ、加速度の定義を理解し、点の座標が与えられたときにそれらを求めることができる。	
	第5章 積分法とその応用 1 不定積分 2 定積分 3 積分法の応用	<input type="checkbox"/> 被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 上端、下端が x である定積分を x の関数とみることができる。 <input type="checkbox"/> 曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 関数の大小とその関数の定積分の大小との関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 <input type="checkbox"/> 立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 回転体の体積を求める方法を理解し、回転体の体積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき、点が動く道りを定積分を用いて求めることができる。	
後 期	問題演習 (数学Ⅲの復習を行う)	(入試に対応できる実力を養成する)	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 B	3年 文系	1	高等学校 数学 B (数研出版)	基礎徹底演習 (Learn-S) PLAN100 (数研出版) ベストレクション大学入試共通テスト (実教出版) チャート式解 法と演習 (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動を行います。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 思考力・省察力 ③チャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・ 教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・ 思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・ 表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・ 協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・ 志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・ 省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができること。 ・いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。 ・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 ・数学的帰納法について理解している。 ・確率変数と確率分布や二項分布と正規分布の性質や特徴について理解すること。	・事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 ・事象の再帰的關係に着目し、日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。 ・自然数の性質を見だし、数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 ・確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察すること。	・事象を数列や統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>第1章 数列</p> <p>1 等差数列と等比数列</p> <p>2 いろいろな数列</p> <p>3 漸化式と数学的帰納法</p> <p>(基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)</p> <p>第2章 統計的な推測</p> <p>1 確率分布</p> <p>2 統計的な推測</p> <p>(基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)</p> <p><input type="checkbox"/>問題演習</p>	<p><input type="checkbox"/>初項と公差を文字で表して、条件から等差数列の一般項を決定できる。</p> <p><input type="checkbox"/>等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。</p> <p><input type="checkbox"/>初項と公比を文字で表して、条件から等比数列の一般項を決定できる。</p> <p><input type="checkbox"/>等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。</p> <p><input type="checkbox"/>数列の和を記号Σで表して、和の計算を簡単に行うことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>種々の数列の和を工夫して求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。</p> <p><input type="checkbox"/>群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。</p> <p><input type="checkbox"/>漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>数学的帰納法を用いて等式、不等式を証明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>確率変数の平均と分散、標準偏差の意味を理解する。また、確率変数 X と $aX+b$ におけるそれらの値の関係について理解し、求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>二項分布の特徴を理解し、二項分布に従う確率変数 X が条件をみたす確率や、平均、分散を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>連続分布、正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>母集団の平均、分散、標準偏差を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>母集団分布と標本分布の関係、および標本平均の分布の特徴について理解し、標本平均の平均と標準偏差や、標本平均が条件を満たす確率を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>得られた標本から母集団の特徴を表す値を推測する方法として、正規分布を利用した信頼区間の考え方を理解し、母平均および母比率を推定することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>得られた標本から母集団に関する主張が妥当かどうかを判断する方法として、正規分布を利用した仮説検定の考え方を理解し、母平均および母比率に関する主張について仮説検定することができる。</p> <p>数列、統計的な推測について標準的かつ頻出な問題を取り扱うことで基礎力、思考力、論証する力を身に付ける。また、数学 B の理解を深めるために数学 I II ABC の演習を行う。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p><input type="checkbox"/>問題演習 (数学 I II ABC)</p>	<p>数列、統計的な推測について標準的かつ頻出な問題を取り扱うことで基礎力、思考力、論証する力を身に付ける。また、数学 B の理解を深めるために数学 I II ABC の演習を行う。</p>	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 B

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 B	3 年 理系	1	高等学校 数学 B (数研出版)	新課程クリアー数学 II B (数研出版) チャート式解法と演習数学 II BC (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。		
学習活動	①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力 ②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。 思考力・省察力 ③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。 思考力・表現力・志力		
未来開拓力	・ 教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・ 思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・ 表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・ 協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・ 志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・ 省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができること。 ・いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。 ・漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 ・数学的帰納法について理解している。 ・確率変数と確率分布や二項分布と正規分布の性質や特徴について理解すること。	・事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 ・事象の再帰的關係に着目し、日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。 ・自然数の性質を見だし、数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。 ・確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察すること。	・事象を数列や統計的な推測の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>第1章 数列</p> <p>1 等差数列と等比数列</p> <p>2 いろいろな数列</p> <p>3 漸化式と数学的帰納法</p> <p>(基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)</p> <p>第2章 統計的な推測</p> <p>1 確率分布</p> <p>2 統計的な推測</p> <p>(基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)</p> <p><input type="checkbox"/>問題演習</p>	<p><input type="checkbox"/>初項と公差を文字で表して、条件から等差数列の一般項を決定できる。</p> <p><input type="checkbox"/>等差数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。</p> <p><input type="checkbox"/>初項と公比を文字で表して、条件から等比数列の一般項を決定できる。</p> <p><input type="checkbox"/>等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。</p> <p><input type="checkbox"/>数列の和を記号Σで表して、和の計算を簡単に行うことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>種々の数列の和を工夫して求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。</p> <p><input type="checkbox"/>群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。</p> <p><input type="checkbox"/>漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>数学的帰納法を用いて等式、不等式を証明できる。</p> <p><input type="checkbox"/>確率変数、確率分布の意味を理解し、確率分布を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>確率変数の平均と分散、標準偏差の意味を理解する。また、確率変数 X と $aX+b$ におけるそれらの値の関係について理解し、求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>二項分布の特徴を理解し、二項分布に従う確率変数 X が条件をみたす確率や、平均、分散を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>連続分布、正規分布について理解し、正規分布に従う確率変数が条件を満たす確率を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>母集団の平均、分散、標準偏差を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>母集団分布と標本分布の関係、および標本平均の分布の特徴について理解し、標本平均の平均と標準偏差や、標本平均が条件を満たす確率を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>得られた標本から母集団の特徴を表す値を推測する方法として、正規分布を利用した信頼区間の考え方を理解し、母平均および母比率を推定することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>得られた標本から母集団に関する主張が妥当かどうかを判断する方法として、正規分布を利用した仮説検定の考え方を理解し、母平均および母比率に関する主張について仮説検定することができる。</p> <p>数列、統計的な推測について標準的かつ頻出な問題を取り扱うことで基礎力、思考力、論証する力を身に付ける。また、数学 B の理解を深めるために、数学 I A II B III C の演習も併行して行う。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p><input type="checkbox"/>問題演習 (数学 I II III ABC)</p>	<p>数列、統計的な推測について標準的かつ頻出な問題を取り扱うことで基礎力、思考力、論証する力を身に付ける。また、数学 B の理解を深めるために、数学 I A II B III C の演習も併行して行う。</p>	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学 C

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 C	3年 理系	2	高等学校 数学 C (数研出版)	新課程クリアー数学 C (数研出版) チャート式解法と演習数学ⅢC (数研出版)

科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 教養力・思考力</p> <p>②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力</p> <p>③クリアーやチャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。思考力・表現力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点 及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解すること。 ・曲線の媒介変数表示について理解すること。 ・極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることについて理解すること。 ・複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積、及び商の図形的な意味を理解すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、理解すること。 ・複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察すること。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて曲線を表すなどして、媒介変数や極座標及び複素数平面の考えを問題解決に活用したり、解決の家庭を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を複素数や式と曲線の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第3章 複素数平面 第4章 式と曲線 1 2次曲線 2 媒介変数表示と極座標	<input type="checkbox"/> 複素数の絶対値の定義を理解し、与えられた複素数の絶対値を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 共役複素数の性質を理解し、用いることができる。 <input type="checkbox"/> 複素数の極形式について理解し、複素数を極形式で表すことができる。 <input type="checkbox"/> 極形式で表された複素数の積と商を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素数の積や商について、絶対値と偏角だけに注目した性質を理解している。 <input type="checkbox"/> 複素数の積や商が複素数平面上で何を表すか理解している。 <input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理を理解し、複素数の n 乗を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し、利用することができる。 <input type="checkbox"/> 放物線の標準形について理解し、放物線の概形をかいたり焦点や準線を求めたりできる。また、条件から放物線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 楕円の標準形について理解し、楕円の概形をかいたり焦点や長軸、短軸の長さを求めたりできる。 <input type="checkbox"/> 双曲線の標準形について理解し、双曲線の概形をかいたり焦点や頂点、漸近線を求めたりできる。 <input type="checkbox"/> x, y の2次式を変形して、2次曲線の概形を考えることができる。 <input type="checkbox"/> 2次曲線の接線の方程式の一般形について理解し、接点が与えられたときに接線を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 楕円と双曲線も、放物線と同じように1つの定点と1つの定直線をもとに考えられることを理解している。 <input type="checkbox"/> 媒介変数表示された曲線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 円や楕円、双曲線を媒介変数表示できる。 <input type="checkbox"/> 点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。 <input type="checkbox"/> 簡単な曲線を極方程式で表すことができる。 <input type="checkbox"/> 平面上の曲線について、 x, y の方程式と極方程式を相互に変換できる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
後 期	問題演習 数学 I <input type="checkbox"/> 数と式 <input type="checkbox"/> 集合と命題 <input type="checkbox"/> 2次関数 <input type="checkbox"/> 図形と計量 <input type="checkbox"/> データの分析 数学 A <input type="checkbox"/> 場合の数と確率 <input type="checkbox"/> 図形の性質 数学 II <input type="checkbox"/> 式と証明 <input type="checkbox"/> 高次方程式 <input type="checkbox"/> 図形と方程 <input type="checkbox"/> 三角関数 <input type="checkbox"/> 指数関数と対数関数 <input type="checkbox"/> 微分と積分 数学 B <input type="checkbox"/> 数列 <input type="checkbox"/> 統計的な推測 数学 C <input type="checkbox"/> 平面上のベクトル <input type="checkbox"/> 空間のベクトル	<input type="checkbox"/> 既習分野の確認と解法のアプローチ ・既習の数学の各分野について、基本的な事項の深い理解により本科目の基盤を作る。また標準的な解法を身につける。 <input type="checkbox"/> 問題への多面的なアプローチ ・ひとつの問題に対して、異なる科目で学んだ複数の手法でアプローチできることを学ぶ。適宜、説明や討論する場を設定し、言語活動を充実させることで、表現力の定着・向上を図る。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学研究	3年 文系	1	高等学校 数学ⅠⅡABC (数研出版)	基礎徹底演習 (Learn-S) PLAN100 (数研出版) チャート式解法と演習 (数研出版)

科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、集合と命題、二次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率及び図形と性質の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動をします。 教養力・思考力</p> <p>②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力</p> <p>③チャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。思考力・表現力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と式、集合と命題、二次関数、図形と計量及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・図形の性質、場合の数と確率について理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理することができる。 	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数や関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。 ・数的な変化や事象から離散的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。 	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を数と式、集合と命題、二次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率及び図形と性質の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<input type="checkbox"/> 問題演習 数学 I 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 数学 A 場合の数と確率 図形の性質	<p>数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数、確率、図形の性質について基礎的、標準的な問題や頻出な問題を取り扱うことで基礎力、思考力、論証する力を身に付ける。</p> <p>また、理解を深めるために数学ⅡBCの演習も行う。</p>	<p>単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学精講

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学精講	3年 文系	1	高等学校 数学 I II ABC (数研出版)	PLAN100 (数研出版) ベクトル・複素数 ト (美教出版) チャート式解法と演習 (数研出版)

科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動を行います。 教養力・思考力</p> <p>②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力</p> <p>③チャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。思考力・表現力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解している。 ・ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解している。 ・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察することができる。 ・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象をベクトルの考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後期	<input type="checkbox"/> 問題演習 数学 C 平面上のベクトル 空間のベクトル (基礎作りと理解の深化をさせるため、 問題演習を通して復習を行う)	平面上のベクトル、空間のベクトル、について、基礎的、標準的な問題を取り扱うことで応用力、思考力、論証する力を身に付ける。 また、理解を深めるために数学 I A, II BC の演習や大学入学共通テストの演習も行う。	単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学総合研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学 総合研究	3年 理系	2	高等学校 数学ⅠⅡABC (数研出版)	基礎徹底演習 (Learn-S) チャート式解法と演習数学ⅡBC (数研出版)

科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 式と証明、複素数及び図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 教養力・思考力</p> <p>②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力</p> <p>③チャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。思考力・表現力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式と証明、複素数及び図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理することができる。 	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数的関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。 ・関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。 	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象を三角関数や指数関数・対数関数または微分・積分の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<p>【数学Ⅰ分野】</p> <p>第1章 数と式</p> <p>1 式の計算</p> <p>2 実数</p> <p>3 1次不等式</p> <p>第2章 集合と命題</p> <p>1 集合</p> <p>2 命題と証明</p> <p>第3章 2次関数</p> <p>1 2次関数とグラフ</p> <p>2 2次関数の値の変化</p> <p>3 2次方程式と2次不等式</p> <p>第4章 図形と計量</p> <p>1 三角比</p> <p>2 三角形への応用</p> <p>第5章 データの分析</p> <p>【数学Ⅱ分野】</p> <p>第1章 式と証明</p> <p>1 式と計算</p> <p>2 等式・不等式の証明</p> <p>第2章 複素数と方程式</p> <p>1 複素数と2次方程式の解</p> <p>2 高次方程式</p> <p>第3章 図形と方程式</p> <p>1 点と直線</p> <p>2 円</p> <p>3 軌跡と領域</p> <p>第4章 三角関数</p> <p>1 三角関数</p> <p>2 加法定理</p> <p>第5章 指数関数と対数関数</p> <p>1 指数関数</p> <p>2 対数関数</p> <p>第6章 微分法と積分法</p> <p>1 微分係数と導関数</p> <p>2 関数の値の変化</p> <p>3 積分法</p> <p>(基礎作りと理解の深化をさせるため、問題演習を通して復習を行う)</p>	<p><input type="checkbox"/>絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>正四面体の体積の求め方を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>二項定理を3項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>高次方程式が解αをもつことを、式を用いて表現できる。</p> <p><input type="checkbox"/>$F(x, y) + kG(x, y) = 0$の形を利用して、2直線の交点を通る直線の方程式を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>線形計画法では(x, y)の1次式$=k$において、この式が直線を表すことを利用できる。</p> <p><input type="checkbox"/>$-1 \leq \sin\theta \leq 1$などに注意して、変数のおき換えによって三角関数を含む関数の最大・最小を考察できる。</p> <p><input type="checkbox"/>$a^x > 0$に注意して、おき換えによって指数方程式・指数不等式を解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。</p> <p><input type="checkbox"/>接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。</p> <p><input type="checkbox"/>3次関数のグラフとx軸とで囲まれた2つの部分の面積の和を求めることができる。</p>	<p>単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<p>問題演習（共通テスト形式）</p>	<p>(各分野の内容を確認するとともに、マークシート形式問題に慣れる。)</p>	<p>単元ごとに、学習「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 数学総合研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
数学総合研究	3年 理系	2	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	新課程クリアー数学Ⅲ (数研出版) チャート式解法と演習数学ⅢC (数研出版)

科目の目標	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
学習活動	<p>①授業の内容は、教科書を進め基礎を学ぶ活動と、問題演習をして理解を深める活動とをします。 教養力・思考力</p> <p>②授業で指定された練習問題等は必ず取り組み、復習をします。 ※家庭ではその日に習ったことを確認しておきます。特に宿題は、定着しかけている知識を確実に定着させるために必ず取り組みましょう。思考力・省察力</p> <p>③チャート式から類問を探して問題を解くことで、理解を確実にします。思考力・表現力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりすることができる。 ・いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとし、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○課題への取組 ○授業の振り返り

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第3章 微分法 1 導関数 2 いろいろな関数の導関数	<input type="checkbox"/> 微分係数、微分可能の定義と、その図形的意味を理解する。 <input type="checkbox"/> 導関数の性質、積の導関数、商の導関数、合成関数の導関数、逆関数の微分法を理解し、種々の導関数の計算に利用することができる。 <input type="checkbox"/> 三角関数、対数関数、指数関数の導関数を理解し、それらを含む種々の関数の導関数を計算できる。	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
	第4章 微分法の応用 1 導関数の応用 2 いろいろな応用	<input type="checkbox"/> 種々の接線の方程式を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 平均値の定理を利用して、不等式を証明する方法を理解している。 <input type="checkbox"/> 関数の増減、凹凸、変曲点、漸近線、定義域、 $x \rightarrow \pm\infty$ のときの状態などを調べてグラフをかくことができる。 <input type="checkbox"/> 方程式 $f(x) = a$ の実数解の個数を、関数 $y = f(x)$ のグラフと直線 $y = a$ の共有点の個数に読み替えて考察できる。 <input type="checkbox"/> 直線上や平面上を運動する点の速度、速さ、加速度の定義を理解し、点の座標が与えられたときにそれらを求めることができる。	
	第5章 積分法とその応用 1 不定積分 2 定積分 3 積分法の応用	<input type="checkbox"/> 被積分関数の形の特徴から、置換積分法や部分積分法を利用して、不定積分を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 上端、下端が x である定積分を x の関数とみることができる。 <input type="checkbox"/> 曲線で囲まれた部分の面積を微小な長方形で近似する考え方で、定積分と和の極限との関係を考察することができる。 <input type="checkbox"/> 関数の大小とその関数の定積分の大小との関係について理解する。 <input type="checkbox"/> 直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 <input type="checkbox"/> 立体の断面積を積分することで体積が求められることを理解し、体積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 回転体の体積を求める方法を理解し、回転体の体積を求めることができる。 <input type="checkbox"/> 座標平面上の点の座標が媒介変数で表されているとき、点が動く道りを定積分を用いて求めることができる。	
後 期	問題演習 (数学Ⅲの復習を行う)	(入試に対応できる実力を養成する)	単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理	3年	5	高等学校 物理 (第一学習社)	セミナー物理基礎+物理 (第一学習社)

科目の目標	物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習活動	①【脳をアクティブに】講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。 【教養力・表現力】 ②【わかったを実感】対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。 【思考力・表現力・協働能力】 ③【できたを実感】問題演習型授業では、正解のものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。 【思考力・省察力】 ④【わかったを実感】観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して学習活動準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。 【思考力・省察力・協働能力】 ⑤【家庭学習への繋がり】授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度を確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。 【教養力・省察力・志力】 ⑥【その他】授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。 【教養力・志力】		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働能力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
評価方法	○定期考査	○定期考査 ○授業状況の観察 ○実験レポート	○振り返りシート ○授業状況の観察 ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第Ⅱ章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波 第3節 光波 第Ⅲ章 電気と磁気 第1節 電場と電位 第2節 電流 第3節 電流と磁場 第4節 電磁誘導と交流	<ul style="list-style-type: none"> ・波源の移動と波長の変化を学習し、音源や観測者が動くさまざまな場合のドップラー効果について、式を用いて理解する。 ・ヤングの実験や回折格子による光の干渉を学習し、薄膜による干渉、くさび形空気層による干渉など、さまざまな場合における光の干渉条件を理解する。 ・コンデンサーの原理を学習し、平行板コンデンサーの電気容量、誘電体、誘電率について理解する。 ・電流計、電圧計、電池の内部抵抗について理解し、さまざまな回路において、キルヒホッフの第1, 2法則を適用する。 ・ローレンツ力について学習し、磁場中に入射した粒子の運動を理解する ・ファラデーの電磁誘導の法則を学習し、磁場中を動く導体に生じる起電力や、導体を動かすのに要する力や仕事の関係を理解する。 	授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート、 振り返りシート
後 期	第Ⅳ章 原子 第1節 電子と光 第2節 原子と原子核	<ul style="list-style-type: none"> ・物質波について学習し、弱い光源によるヤングの実験をもとに、粒子と波動の二重性を理解する。 ・放射性崩壊における特徴と原子核の安定性について理解する。 ・核反応について学習し、反応の際に放出、吸収されるエネルギーを理解する。 	授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート、 振り返りシート

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学	3年	5	高等学校 化学 (第一学習社)	サイエンスビュー-化学総合資料(実教出版) ニューアチーブ化学(東京書籍) セミナー-化学基礎+化学(第一学習社)、教員作成プリント

科目の目標	<p>化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>		
学習活動	<p>① 化学的な事物・現象に対する探究心を高めることができるよう、自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の観察実験活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて、化学的に探究する能力と態度を育みましょう。正解そのものより、導出過程に目を向けてみよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。表現力・省察力・協働能力</p> <p>② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。思考力・省察力・志力</p> <p>③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート（授業プリント）をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、目的意識をもって、相手の考えを参考に理解を深めましょう。教養力・表現力・協働能力</p> <p>④ 課題や小テスト等は、おろそかにしないようにしましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましょう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑤ 化学の基本的な概念や原理・法則に対する理解を深め、科学的な自然観を養うために、日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。教養力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	<p>知識・技能</p> <p>自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○課題への取組 ○定期考査 ○実験レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■ 第Ⅱ章 物質の変化と平衡</p> <p>第1節 物質とエネルギー</p> <p>第2節 電池・電気分解</p> <p>第3節 化学反応の速さ</p> <p>第4節 化学平衡</p> <p>第5節 電離平衡</p> <p>■ 第Ⅲ章 無機物質</p> <p>第1節 非金属元素の単体と化合物</p> <p>第2節 典型金属元素の単体と化合物</p> <p>第3節 遷移元素の単体と化合物</p> <p>第4節 無機物質と人間生活</p> <p>■ 第Ⅳ章 有機化合物</p> <p>第1節 有機化合物の特徴と分類</p> <p>第2節 脂肪族炭化水素</p> <p>第3節 酸素を含む脂肪族化合物</p> <p>第4節 芳香族化合物</p> <p>第5節 有機化合物と人間生活</p> <p>■ 第Ⅴ章 高分子化合物</p> <p>第1節 天然高分子化合物－糖類</p> <p>第2節 天然高分子化合物－タンパク質</p>	<p><input type="checkbox"/> 可逆反応と不可逆反応、および化学平衡の意味と平衡定数の意味を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> ルシャトリエの原理を理解し、ルシャトリエの原理の応用例としてアンモニアの製法を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 水の電離平衡、弱酸・弱塩基の電離平衡について理解する。pH についての理解を深め、平衡定数の応用を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 塩の性質とその反応について、化学平衡の概念から理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 緩衝液とその作用を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 溶解度積を理解し、その応用を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 元素の分類を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 水素とその化合物、希ガス、ハロゲン・酸素・硫黄・窒素・リン・炭素・ケイ素とその化合物について、性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> アルカリ金属とその化合物、2族元素とその化合物、亜鉛とその化合物、アルミニウムとその化合物、スズ・鉛とその化合物について、性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 遷移元素、鉄・銅・銀・クロム・マンガンとその化合物・金属の単体や合金・セラミックスについて、性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 金属イオンの定性分析について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン・カルボン酸・エステル・油脂・セッケンについて、その性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 芳香族炭化水素、フェノール類、芳香族カルボン酸、芳香族アミン、アゾ化合物、アニリンについてその性質や用途を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 芳香族化合物の分離の原理を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 食品、界面活性剤、染料、医薬品について、その性質を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 単糖、二糖、多糖について、その構造や性質を理解する。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<p>第3節 合成高分子化合物</p> <p>■ 問題演習</p>	<p><input type="checkbox"/> 再生繊維と半合成繊維について、その合成や性質を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> α-アミノ酸、タンパク質、核酸について、その性質や構造などを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 合成高分子化合物について、その分類や重合の種類を理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 合成繊維、合成樹脂、機能性高分子、合成ゴムと天然ゴムについて、その構造や性質、用途を学習する。</p> <p><input type="checkbox"/> 合成樹脂の廃棄の問題点とその処理について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/> 教科書の全範囲について、問題演習をとおして振り返りを行うことにより、知識の定着を図る。</p> <p><input type="checkbox"/> 大学入学共通テストにむけた対策問題演習を通じて、化学的に探求する能力を育てる。</p> <p><input type="checkbox"/> 習熟度別に、二次対策問題演習に取り組み、学力の向上を図る。また、二次対策問題演習を通じて、知識の運用力を養う。</p>	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物	3年	5	生物 (第一学習社)	生物の必修整理ノート(文英堂) ニューステージ生物図表(浜島書店) NEW GLOBAL生物(東京書籍) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	<p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>		
学習活動	<p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働能力</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。思考力・省察力・協働能力</p> <p>⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑥【その他】 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて生物・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において生物・科学に触れてみましょう。教養力・志力</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識技能 様々な生物現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。	思考判断表現 実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めいる。観察結果を適切に判断できる。	主体的学習・取組態度 様々な生物現象について関心をもち、それを生物学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	<input type="radio"/> 授業状況の観察 <input type="radio"/> ノート、授業プリント <input type="radio"/> 課題への取組 <input type="radio"/> 定期考査	<input type="radio"/> 授業状況の観察 <input type="radio"/> ノート、授業プリント <input type="radio"/> 定期考査	<input type="radio"/> 授業状況の観察 <input type="radio"/> ノート、授業プリント <input type="radio"/> 課題への取組

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	生体物質と細胞 ①細胞を構成する物質 タンパク質の構造と性質 ①タンパク質の構造と性質 生命現象とタンパク質 ①酵素 ②膜輸送タンパク質 ③受容体 代謝とエネルギー ①同化と異化 炭酸同化 ①光合成と葉緑体 ②光合成の過程 異化 ①呼吸とミトコンドリア ②発酵 DNAの複製 ①DNAの構造と複製 遺伝子の発現 ①転写 ②翻訳 遺伝子の発現調節 ①遺伝子の発現調節 発生と遺伝子の発現 ①動物の配偶子形成と受精 ②ショウジョウバエの発生における遺伝子の発現調節 ③カエルの発生における遺伝子の	<ul style="list-style-type: none"> ・細胞を構成する物質 ・界面活性剤を用いた実験から、生体膜の構造について考察する ・細胞骨格と細胞小器官 ・アミノ酸とペプチド結合 ・タンパク質の構造と機能 ・基質特異性と立体構造, 補酵素 ・カタラーゼの働きを確認する ・外的条件がカタラーゼに与える影響について考察する ・酵素反応と温度, pH ・酵素反応の速度と基質濃度, 酵素濃度 ・競争的阻害と非競争的阻害 ・細胞膜の性質と物質の透過 ・膜輸送タンパク質, 受容体散 ・代謝におけるエネルギーの流れ ・エネルギーの受け渡しに関わる物質 ・葉緑体の構造 ・光合成色素 ・緑葉に含まれる色素を調べる ・植物の光合成におけるエネルギーの流れを見いだす ・光化学反応, カルビン回路 ・細菌の光合成 ・ミトコンドリアの構造 ・呼吸におけるエネルギーの流れを見いだす ・解糖系, クエン酸回路, 電子伝達系 ・脱水素酵素を用いて酸化還元反応を確認する ・さまざまな呼吸基質と呼吸商 ・アルコール発酵と乳酸発酵の過程 ・アルコール発酵を確認する ・DNAの構造 ・DNAの複製 ・真核生物における転写とスプライシング, 翻訳 ・大腸菌が必要に応じて遺伝子発現を調節していることを見いだす ・原核生物と真核生物における遺伝子の発現調節 ・動物の配偶子形成と受精 ・ウエの受精を観察する ・母性因子と分節遺伝子 ・分節遺伝子の発現のしくみを見いだす 	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれおこなない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。

発現調節	・ホメオティック遺伝子
④発生過程にみられる多様性と共通性	・カエルの発生
遺伝子を扱う技術	・中胚葉誘導, 神経誘導
①遺伝子の単離と増幅	・誘導の連鎖による器官形成
②遺伝子の構造や発現を解析する方法	・Hox遺伝子群
③遺伝子の機能を解析する方法	・クローニング
遺伝子を扱う技術の応用	・PCR法
①人間生活への応用	・電気泳動法
②遺伝子を扱う際の課題	・塩基配列の解析法
刺激の受容と反応	・細胞へ遺伝子を導入する
①刺激の受容と反応	・遺伝子の解析方法
②神経系とニューロン	・食糧生産や医療への応用
③ニューロンによる電気的な信号の生成とそれを伝えるしくみ	・DNA型鑑定
④受容器	・遺伝子を扱う際の課題
⑤中枢神経系の構造と反応	・ニューロンの構造
⑥効果器	・活動電位, 興奮の伝導と伝達
動物の行動	・EPSPとIPSP, シナプス後電位の加重
①動物の行動	・眼の構造と光を受容するしくみ
②生得的行動	・耳の構造と聴覚が生じるしくみ
③習得的行動と学習	・右眼の盲斑の形を調べる
植物と環境	・脳の構造と機能, 脊髄と反射
①植物の刺激の受容と情報の伝達	・骨格筋の構造
植物の一生と植物ホルモン	・神経筋標本を用いて, 運動ニューロンと筋収縮の関係を見いだす
①被子植物の受精と胚発生	・筋収縮が起こるしくみ
②種子の発芽と光環境	・生得的行動と習得的行動
③植物の環境応答と成長	・固定的動作パターン, 中枢パターン発生器
④花芽形成と花の形成	・慣れが起こるしくみを見いだす
⑤果実の成長と成熟, 落葉・落果	・脱慣れと鋭敏化
個体群と生物群集	・さまざまな習得的行動
①個体群とその特徴	・ダイコンの芽ばえがリンゴの果実から受ける影響を見いだす
②個体群の変動と維持	・植物ホルモン
③個体群内の相互作用	・植物体内での物質輸送
④個体群間の相互作用	・被子植物の受精と胚発生
⑤多様な種が共存するしくみ	・種子の休眠と発芽
生態系の物質生産と消費	・光発芽種子と暗発芽種子, 光受容体
①物質生産	・オーキシンの働き
②物質とエネルギーの移動	・光屈性, 重力屈性
生態系と人間生活	・花芽形成と光
①生態系と生物多様性	・ABCモデル
②人間活動と生態系の変化	・果実の成長と成熟, 落葉・落果
③生物多様性の保全とその意義	・個体群と分布様式
	・個体群の成長のようすを観察する(観察2)
	・個体群が成長しつづけない要因を確認する
	・個体群内のさまざまな相互作用
	・個体群間の相互作用
	・異種のゾウリムシ類の間にみられる関係性を

		<p>見いだす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な種が共存するしくみ, ニッチ ・物質生産 ・層別刈取法により生産構造図を作成する ・炭素の循環 ・物質収支 ・エネルギーの流れを見いだす ・窒素の循環 ・生物多様性 ・化学肥料の使用が水界生態系に与える影響を見いだす ・人間活動と生態系の変化 ・生物多様性を保全する意義 ・生態系に影響を与える人間活動と保全について調べる 	
--	--	--	--

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 物理基礎研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
物理基礎研究	3年	2	高等学校 新物理基礎 (第一学習社)	実験プリント 問題プリント

科目の目標	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。		
学習活動	<p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。教養力・表現力</p> <p>②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。思考力・表現力・協働力</p> <p>③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。思考力・省察力</p> <p>④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行います。思考力・省察力・協働力</p> <p>⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度を確認しましょう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもちましょう。教養力・省察力・志力</p> <p>⑥【その他】 授業で学習する様々な物理現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて物理・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において物理・科学に触れてみましょう。教養力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 様々な物理現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身につけている	思考・判断・表現 実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めている。観察結果を適切に判断できる。	主体的に学習に取り組む態度 様々な現象について関心を持ち、それを物理学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
評価方法	○定期考査	○定期考査 ○授業状況の観察 ○実験レポート	○振り返りシート ○授業状況の観察 ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	以下すべての既習分野 ・力学 ・波 ・熱 ・電磁気 ・エネルギー	<input type="checkbox"/> 問題設定を理解し、必要な情報を作図を用いて説明できる。 <input type="checkbox"/> 問題設定から関係する物理量が何かを把握し、論理的に説明できる。 <input type="checkbox"/> 温度と熱の区別ができ熱の特性を知り、熱に関する現象を論理的に説明できる。 <input type="checkbox"/> 回路図の要点、電場や磁場の様子、関係する物理量が何かを把握し、論理的に説明できる。	単元ごとに前述の「学習活動」の①～⑥をそれぞれ行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
後 期		<input type="checkbox"/> 発電のメカニズムが理解でき、原子の構成と特性を把握し、論理的に説明できる。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 化学基礎研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
化学基礎研究	3年	2	高等学校 化学基礎 (第一学習社)	自作教材 (プリント) サイエンスビュー化学総合資料(実教出版) 岡山県高等学校理科協議会発行の実験書

科目の目標	化学基礎で扱った内容に関連する発展的・応用的な学習を通して、日常生活や社会生活における、知識の運用力を養う。特に、日常生活や社会に関わりの深い「科学技術とエネルギー」、「人間生活と化学」に関する分野を中心に扱うことで化学に関する事物・現象についての理解を深め、科学的思考力や自然観を育成する。また、それぞれの分野で化学が関わる社会問題に対して、解決しようとする姿勢を育む。		
学習活動	<p>① 自ら主体的に取り組む探究活動を重視し、実験の計画から結果の考察までの一連の活動を通して、自ら考えて活動し、考察をレポートにまとめたり、発表したりできるように心がけて学習に取り組ましましょう。正解そのものより、<u>導出過程</u>に目を向けてみよう。なぜ? どうして? という疑問を出発点に論理的に考えてみましょう。<u>表現力・省察力・協働力</u></p> <p>② 次回学習するであろう教科書のページは、事前に複数回読んだのち、授業に臨みましょう。その際、教科書傍用問題集を活用して、教科書のまとめをしておこう。余裕があれば、問題演習にもチャレンジしましょう。<u>思考力・省察力・志力</u></p> <p>③ 授業は板書をただ写すのではなく、ポイントのみを自分なりの書き方でまとめていきましょう。通常は教科書を読んでから授業に臨んでいるはずなので、疑問点を質問できるように整理しておき、教科担任に質問しましょう。ノート(授業プリント)をきちんと整理(ファイリング)し、教科書や図表がぼろぼろになるくらい、授業中もしっかり活用し、知識の定着を図りましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めましょう。<u>教養力・表現力・協働力</u></p> <p>④ 課題や小テスト等は、おろそかにせず、普段から基礎固めを丁寧にやりましょう。また、配布された各種授業プリントや演習プリント、問題集等を活用して、授業がある日はしっかりと復習をし、自分の理解度を高めましょう。テスト直しのノート(「訂正ノート」)が、あなたの参考書になっているはず。オリジナルのノートに仕上げましょう。<u>教養力・省察力・志力</u></p> <p>⑤ 日頃から、暮らしの中の化学物質や化学製品に関心を持っておきましょう。<u>教養力・志力</u>※ 教科書や図説を利用しながら、問題演習にチャレンジしましょう。</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
評価方法	○課題への取組 ○定期考査 ○実験レポート	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
前 期	<p>1 科学技術とエネルギー</p> <p>2 人間生活と化学</p> <p>3 問題演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> スチールウールの燃焼実験を通して探究し、化学反応における量的関係について理解を深める。 歴史上の電池について、問題演習を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 電池の原理について、問題演習を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義、酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係、中和と塩について、実習「中和滴定曲線」を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向について、実習「金属のイオン化傾向」を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応について、実習「酸化還元反応」を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 物質の溶解と濃度について観察・実験を通して探究し、問題演習を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> セッケンと合成洗剤について、環境問題を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> エネルギー問題の未来について意見交換し、理解を深める。 教科書の全範囲について、問題演習をおこなうことにより、科学的なものの見方・考え方を醸成する。 <input type="checkbox"/> 大学入学共通テストに向けた対策問題演習を通じて、化学的に探究する能力を育てる。 	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<p>4 問題演習</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 前期と同様に教科書の全範囲について、問題演習をおこなうことにより、科学的なものの見方・考え方を醸成する。 <input type="checkbox"/> 大学入学共通テストに向けた対策問題演習を通じて、化学的に探究する能力を育てる。 	<p>単元ごとに前述の「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 生物基礎研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
生物基礎研究	3年	2		自作教材 ニューステージ生物図表(浜島書店) 生物の実習(岡山県高等学校理科協議会)

科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
学習活動	①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。 教養力・表現力 ②【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。 思考力・表現力・協働能力 ③【できたを実感】 問題演習型授業では、正解そのものより、導出過程に目を向けよう。なぜ？どうして？という疑問を出発点に論理的に考えましょう。 思考力・省察力 ④【わかったを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょ。 思考力・省察力・協働能力 ⑤【家庭学習への繋がり】 授業内に振り返りの時間がありますから、その日の学習内容について、自分の理解度確かめよう。学習した内容を当日のうちに、問題集の基本問題を解いて定着を図る自主性をもとう。 教養力・省察力・志力 ⑥【その他】 授業で学習する様々な生物現象を、身近な事柄に結びつけるとさらに理解が進みます。書物やテレビなどにおいて生物・科学に親しむことを推奨します。いろいろな場面において生物・科学に触れてみましょう。 教養力・志力		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働能力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識技能 様々な生物現象に関する概念や原理・法則について、基本的な知識を身に付けている。	思考判断表現 実験結果から導かれる原理や法則について思考を深めいる。観察結果を適切に判断できる。	主体的学習・取組態度 様々な生物現象について関心をもち、それを生物学的に探究することに意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ノート・授業プリント ○課題への取組 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ノート・授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○ノート・授業プリント ○課題への取組

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
前期	<p>1 生物と無生物の違い</p> <p>2 身近な環境が生物へ与える影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 「タンパク質の性質」実習を通して酵素（主成分：タンパク質）と温度やpHの関係について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 「細胞の観察と機能」実習を通じて、細胞構造の理解し、さらに細胞膜の機能について理解を深める。 <input type="checkbox"/> 光合成と外的条件の関係について、「光合成と光」実習を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 呼吸の過程について、問題演習を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 発酵について「アルコール発酵と温度」を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 遺伝子発見の歴史を通じて、科学者達の思考過程や情熱の理解を深める。 <input type="checkbox"/> 身近な細胞から遺伝子の実物を、実習「DNAの抽出実験」を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 電気泳動の原理を、実習「電気泳動で見る」で体験し、理解を深める。 <input type="checkbox"/> 神経の機能について「甘味の閾値測定」実習を通じて、理解を深める。 <input type="checkbox"/> フェロモンの働きについて、「社会性昆虫を使ってフェロモンの役割を知る」実習を通じて理解を深める。 <input type="checkbox"/> 植物ホルモンの種類と働きを「エチレングスの働き」実習を通じて、理解を深める。 <input type="checkbox"/> 生息する生物の種類と土壌の関係を「各土壌と土壌生物」実習を通じて、理解を深める。 	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	3 問題演習	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 教科書の全範囲について、問題演習をおこなうことにより、科学的なものの見方・考え方を醸成する。 <input type="checkbox"/> 大学入学共通テストに向けた対策問題演習を通じて、生物学的に探究する能力を育てる。 	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③、④、⑤をそれぞれおこない、単元を通じて4つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 体育

科目	学年	単位数	教科書	副教材
体育	3年	2	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 (大修館)

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
学習活動	①運動の合理的、計画的な実践や体育理論の学習を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにします。 教養力・省察力・志力 ②生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養います。 教養力・思考力・表現力・協働力 ③運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養います。 思考力・協働力・省察力			
未来開拓力	・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力：自らの行動を振り返り改善し、前に踏み出す力	
評価の観点及び評価規準	知識・技能 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	主体的に学習に取り組む態度 生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	
評価方法	○パフォーマンステスト ○新体力テスト ○授業状況の観察 ○知識理解度テスト ○体育理論テスト	○グループ活動の観察 ○グループノート ○振り返りシート	○授業状況の観察	

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	オリエンテーション 集団行動 体づくり運動 陸上競技 バレーボール（兼球技大会練習）	通年で） <input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこない、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	選択制授業Ⅰ（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・ソフトボール ・バスケットボール ・バレーボール ・テニス （体育館） ・バドミントン （武道場） ・卓球 選択制授業Ⅱ（以下から1つ） （グラウンド） ・サッカー ・ソフトボール ・バスケットボール ・バレーボール ・テニス ・体育実技 （体育館） ・バドミントン （武道場） ・卓球	<input type="checkbox"/> グループノートを用いて、授業計画を綿密に立てることができる。 <input type="checkbox"/> 足のリズムを合わせて、大きな声を出し、列を揃えて、集団走ができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、グループで協力して活動することができる。 <input type="checkbox"/> 意欲的に練習に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> グループ全員の技能上達を目指して、互いにアドバイスをし合うことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	
前 期 末 と 後 期 末	体育理論 ・生涯スポーツの見方、考え方 ・ライフステージに応じたスポーツ ・日本のスポーツ振興 ・スポーツと環境	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内でしっかり発言できる。 <input type="checkbox"/> グループ内で他の意見を聞き、自分の考えを深めることができる。 <input type="checkbox"/> グループ内の意見をまとめて、全体へ向けて発表できる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。	「学習活動」の①をおこない、3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 音楽Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽Ⅱ	3年	2	MOUSA 2 (教育芸術社)	なし

科目の目標	<p>音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>		
学習活動	<p>毎回の授業で、表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、学習活動を行います。</p> <p>【歌唱】【器楽】では、1人での演奏や少人数でのアンサンブル、全員での合唱・合奏というように、様々な形態の表現に取り組みます。仲間と聴き合い、演奏のアイデアを積極的に試みましょう。</p> <p style="text-align: center;"><u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u></p> <p>【創作】では、作曲をします。音を使って0から1を創り出す面白さを感じましょう。人によって完成する曲は様々です。人との違いを発見する楽しさも感じられます。また、音楽理論などを学ぶことにより、楽譜の内容と関連づけて表現や鑑賞に生かしましょう。</p> <p style="text-align: center;"><u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u></p> <p>【鑑賞】は、聴いて楽しむことに留まらず、得た知識から音楽を分析・理解することで、そのよさや美しさを深く味わい、新たな魅力に気づいていきましょう。</p> <p style="text-align: center;"><u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u></p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。	思考・判断・表現 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。	主体的に学習に取り組む態度 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート	○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> 発声の基礎 校歌 独唱曲 ■ 器楽 <ul style="list-style-type: none"> アルトリコーダーの奏法 リコーダーアンサンブル ギターアンサンブル ■ 創作 <ul style="list-style-type: none"> 音楽理論 旋律の変奏 ボディーパーカッション ■ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> オーケストラ作品 協奏曲 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 歌唱表現を深めていくために必要な、基礎的な技術を身に付ける。 <input type="checkbox"/> 歌詞の意味を正しく理解し、旋律と歌詞の両面から捉えた表現を考え、それらをふまえて歌うことができる。 <input type="checkbox"/> 呼吸や運指を理解し、音色やアーティキュレーション等の変化をつけて表現する。 <input type="checkbox"/> アンサンブルにおける調和を工夫する <input type="checkbox"/> ギターの基本的な奏法を学習し、奏法の工夫による演奏効果を表現に活用する。 <input type="checkbox"/> 基礎的な記譜方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 旋律の変奏について学ぶ。 <input type="checkbox"/> 基礎的なリズムの読譜力を身につける。 <input type="checkbox"/> 作曲者の意図を汲み取りながら、音楽の特徴を感じとり、そのよさをあじわう。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。</p> <p>作品の創作にも取り組む。年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。</p>
後期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> 日本歌曲独唱 混声3部合唱 ■ 器楽 <ul style="list-style-type: none"> ギター独奏（コード） 篠笛 ■ 創作 <ul style="list-style-type: none"> 作曲 ■ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統音楽 舞台音楽 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 歌い合わせる力を伸ばし、一体感のある音色で、各パートと全体の調和を図る。 <input type="checkbox"/> 言葉のもつ語感を音楽と関わらせ、音楽を分析しながら表現の工夫を考える。 <input type="checkbox"/> コードの仕組みについて理解し、その働きを感じ取りながら弾き歌いで表現する。 <input type="checkbox"/> 篠笛特有の奏法に触れ、簡単な曲を演奏体験する。 <input type="checkbox"/> 旋律の作り方について理解し、自己のイメージにこだわりながら、簡単な曲作りを行う。 <input type="checkbox"/> 作曲者・出演者・演出家などの意図、作品の特徴などについての考察を通し、舞台芸術や伝統文化に対する理解を深める。 <input type="checkbox"/> それぞれの文化の特徴を把握し、比較しながら、そのよさを味わう。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。</p> <p>作品の創作にも取り組む。年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 美術Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
美術Ⅱ	3年	2	高校生の美術2 (日本文教出版)	なし

科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 (2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3)主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習活動	・進路に必要な実技を身に付ける科目です。 ・学習内容を一体的・総合的に扱ったり、関連付けて扱ったりするなど柔軟に学びます。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	思考・判断・表現 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	主体的に学習に取り組む態度 美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品

年間指導計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>■自由制作①（デッサン・着彩・その他）</p> <p>■自由制作②（デッサン・着彩・その他）</p>	<p><input type="checkbox"/>立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。（学習内容にかかわらず共通）</p> <p><input type="checkbox"/>自分の進路に応じた課題を選び制作する。</p>	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>
後 期	<p>■自由制作③（デッサン・着彩・その他）</p> <p>■自由制作④（デッサン・着彩・その他）</p> <p>■自由制作⑤（デッサン・着彩・その他）</p>	<p><input type="checkbox"/>立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。（学習内容にかかわらず共通）</p> <p><input type="checkbox"/>自分の進路に応じた課題を選び制作する。</p>	<p>様々な創作活動をおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
書道Ⅱ	3年	2	書Ⅱ（光村図書）	なし

科目の目標	書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。 （２）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。 （３）主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習活動	・書道Ⅰで学んだ知識と技能を活かして、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の3つの分野についてより深く学びます。 ①臨書 「臨書」とは、すぐれた古典を手本にして書き、その技法を学ぶことです。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な知識と、幅広い表現技法を身に付けます。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u> ②創作 臨書で身に付けた力を活かして創作活動に取り組みます。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u> ③鑑賞 作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かします。 <u>教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</u>		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 ・書の表現の方法や形式、多様性などについて、書道の創造的な諸活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けている。	思考・判断・表現 ・意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	主体的に学習に取り組む態度 ・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字の書（篆書） <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな篆書作品の鑑賞と臨書 ・甲骨文 ・金文 ・小篆 ■ 刻字 <ul style="list-style-type: none"> ・表札の制作 ■ 漢字の書（隷書） <ul style="list-style-type: none"> ・乙瑛碑の鑑賞と臨書 ■ 漢字の書（草書） <ul style="list-style-type: none"> ・十七帖の鑑賞と臨書 ■ 漢字の書（楷書・行書） <ul style="list-style-type: none"> ・集王聖教序の鑑賞と臨書 ・始平公造像記の鑑賞と臨書 ■ 漢字の書（創作） <ul style="list-style-type: none"> ・既習の古典を活かした条幅作品の制作 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>篆書の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/>それぞれの古典について特徴を捉え、臨書表現の工夫をする。 <input type="checkbox"/>刻字の手順・方法を理解し、表現を工夫する。 <input type="checkbox"/>基本的な刻字の技法を習得する。 <input type="checkbox"/>隷書の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/>草書の特徴を理解し、臨書表現の工夫ができる。 <input type="checkbox"/>書道 I の学習をもとに楷書、行書の多様な表現への理解をより深める。 <input type="checkbox"/>古典臨書で学んだ表現技法を活かして漢字創作を行うことができる。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②③をそれぞれ行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。</p>
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仮名の書 <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな古筆の鑑賞と臨書 ・高野切第三種 ・関戸本古今集 ・寸松庵色紙 ■ 漢字仮名交じりの書 <ul style="list-style-type: none"> ・用具用材の工夫 ・表現の工夫 ・題材の工夫 ■ 創作（自分の好きな言葉を書く） ■ 完成作品の鑑賞会 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>仮名の基本用筆を習得し、表現することができる。 <input type="checkbox"/>それぞれの古筆について特徴を捉え、臨書表現の工夫をする。 <input type="checkbox"/>古筆を基にいろいろな表現方法を身に付ける。 <input type="checkbox"/>用具用材の効果を理解し、表現に応用できる。 <input type="checkbox"/>字形の構成、全体の構成について工夫することができる。 <input type="checkbox"/>表現方法を自ら構想し、意図に合わせた創作ができる。 <input type="checkbox"/>他の生徒の良いところ、自分の作品の意図や工夫点を客観的に分析し、発表することができる。 	<p>単元ごとに「学習活動」の①②③をそれぞれ行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 書道表現

科目	学年	単位数	教科書	副教材
書道表現	3年	2	なし	『中国書道史年表』（二玄社） 『日本書道史年表』（二玄社） 『中国法書選』（二玄社） 『日本名筆選』（二玄社）

科目の目標	<p>書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>（２）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。</p> <p>（３）主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>		
学習活動	<p>・書道Ⅰ、Ⅱで学んだ知識と技能を活かして、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」の3つの分野についてより深く学びます。</p> <p>・授業は、臨書や創作を行います。臨書を通して、用筆・運筆、字形や作品全体の構成など、書の基礎的な知識と、幅広い表現技法を身に付けます。そして、臨書で身に付けた力を活かして創作にも取り組みます。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</p> <p>・作品を「書く」ことだけでなく、「みる」ことも大切です。さまざまな書作品の鑑賞を通して、その作品のよさや美しさについて考え、味わい、自分の表現に活かします。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力</p>		
未来開拓力	<p>・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能</p>	<p>・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力</p> <p>・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力</p>	<p>・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力</p> <p>・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力</p> <p>・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力</p>
評価の観点及び評価規準	<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>・書の表現の方法や形式、多様性などについて、書道の創造的な諸活動を通して理解を深めている。</p> <p>・書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けている。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>・意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりしている。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>
評価方法	<p>○授業状況の観察</p> <p>○ワークシート</p> <p>○提出作品</p>	<p>○授業状況の観察</p> <p>○ワークシート</p> <p>○提出作品</p>	<p>○授業状況の観察</p> <p>○ワークシート</p> <p>○提出作品</p>

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字の書 <ul style="list-style-type: none"> ・臨書 ・創作 ■ 仮名の書 <ul style="list-style-type: none"> ・臨書 ・創作 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 研究する古典を選択し、臨書や鑑賞を通して、用筆法を習得する。 <input type="checkbox"/> 書道史をはじめとする理論を学び、古典の背景を理解する。 <input type="checkbox"/> 臨書で習得した表現方法を活かした漢字創作を行う。 <input type="checkbox"/> 書を構成する要素や表現効果の視点をもって、完成した作品を鑑賞する。 	様々な書作活動を行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■ 漢字仮名交じりの書 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> これまでに扱ったことのある古典から選択し、その古典の臨書や鑑賞を通して用筆法を習得する。 <input type="checkbox"/> 漢字と仮名の調和した字形や文字の大きさ、全体の構成となるように工夫する。 <input type="checkbox"/> 書を構成する要素や表現効果の視点をもって、完成した作品を鑑賞する。 	様々な書作活動を行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語コミュニケーションⅢ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語コミュニケーションⅢ (英語ⅢA・C)	3年	4	Heartening English Communication Ⅲ (桐原書店)	・EARTHRISE アースライズ総合英語 (数研出版) ・ウィズダム英和辞典 (三省堂) ・Heartening Workbook for Intensive Listening and Reading(桐原書店)

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。		
学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に沿って学習し、読む・聞く・話す・書く能力をバランスよく伸ばします。 ・リスニング演習や速読演習、語彙や内容の確認テスト(各Lesson)を適宜行います。復習により知識の定着を図る必要があることから、Lessonごとに復習テストや課題に取り組んだり、週末課題のプリントを解いたりして応用力をつけていきましょう。 ・語学の学習は、学習を繰り返しこつこつと知識を積み上げる努力が欠かせません。教科書で習ったキーワード、キーセンテンス語彙・構文・文法は、時間がかかっても、きちんと覚えましょう。 ・副教材を用いて語彙力・文法力等を高めていくことが、速く正確な読解力をつけるために不可欠ですから、積極的に時間を見つけて繰り返し学習しましょう。 		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見解決のための知識 ・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 [知識] 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 [技能] 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。	思考・判断・表現 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題等の提出 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノート・プリントの点検 ○小テスト

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期 第1回 考査	Lesson 1 What Makes Up Your Identity? Lesson 2 Predicting Future Technology Lesson 3 The Science of Sleep	<input type="checkbox"/> アイデンティティについて扱い、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養う。 <input type="checkbox"/> 未来予想について扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。 <input type="checkbox"/> 睡眠について扱い、豊かな情操を培うとともに、健やかな身体を養うことにつなげる。	<input type="checkbox"/> ディスコースマーカーや文構造に注意しながら、論説文、説明・物語文などを読み、内容や情報を整理し、理解を確認する。 <input type="checkbox"/> 本文の大意を把握し、英語で要約と感想を述べる。
前期 第2回 考査	Lesson 4 Diversity and Inclusion Lesson 5 Protein Crisis Lesson 6 Different Types of Happiness	<input type="checkbox"/> 多様性について扱い、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。 <input type="checkbox"/> 将来のタンパク源について扱い、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。 <input type="checkbox"/> 幸福論について扱い、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度などを養う。	<input type="checkbox"/> 学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどの主題について、話し合ったり、各自の考えや説明を文章として簡潔に書く。 <input type="checkbox"/> 新出単語・イディオムを学習し、日本語から英語への自動化を図る。
後期 第3回 考査	Lesson 7 Pros and Cons of Utilizing AI Lesson 8 Kintsugi: The Art of Embracing the Imperfect Lesson 9 Getting Your Message Across	<input type="checkbox"/> AIについて扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う <input type="checkbox"/> 伝統工芸品について扱い、文化を尊重し、それを育んできた環境を大切にする態度を養う。 <input type="checkbox"/> 人前での話し方について扱い、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う。	<input type="checkbox"/> 文法問題に取り組み、その文法事項を使って自分の意見を述べる。 <input type="checkbox"/> グループで与えられたトピックについて話す。
後期 第4回 考査	Lesson 10 Medical Ethics During a Pandemic	<input type="checkbox"/> 医療倫理について扱い、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。	

* 速読、多読、リスニング力の強化を目指した補助教材を追加します。

* この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 論理・表現Ⅲ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
論理・表現Ⅲ (英語ⅢB)	3年	2	FACTBOOK English Logic and Expression Ⅲ (桐原書店)	・EARTHRISE アースライズ総合英語 (数研出版) ・ウィズダム英和辞典(三省堂) ・Insight英文法・語法・熟語問題集 (啓林館)

科目の目標	英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。		
学習活動	<p>これまで学習してきた英文法の内容を確認しつつ、和文英訳と自由英作文を実践的に学習することで英語表現の力をさらに磨き上げる。</p> <p>次の1)～3)を意識して学習活動を行う。</p> <p>1)「予習－授業－復習」のサイクルの習慣化 予習(動画を視聴し、ワークブックの問題に解答する)で自分の理解できること、できないことを明確にして授業に臨む。そして授業で内容を十分に理解したうえで、復習で内容を定着させるサイクルを作る。</p> <p>2)授業中はしっかり活動する 「英語を使うことができる」とはインプット・インテイク・アウトプットの繰り返しによって、反射的に英語が出てくる状態になっていることをいう。授業では常にクイックレスポンスを意識して内容を取り入れ(インプット)、繰り返し音読をし、暗唱できる英文を増やし、英語を深く自分の中に定着させる(インテイク)。そしてペアワークやグループワークで実際に使う経験を重ねていく。</p> <p>3)スポーツと同じように体を使って英語を学ぶ 目(読む)耳(聞く)口(話す)手(書く、ジェスチャーをする)をできるだけ複数同時に使って英語の学習に取り組む。身体感覚を駆使して学習した英語は自分の中に定着していく。</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力
		<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力	<ul style="list-style-type: none"> ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
		<ul style="list-style-type: none"> ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力	
評価の観点及び評価規準	知識・技能 [知識] 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 [技能] 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	思考・判断・表現 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	主体的に学習に取り組む態度 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査、パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○調査・発表態度の観察 ○授業ノート・プリントの点検 ○課題の点検 ○小テスト ○パフォーマンステスト

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい (各課で以下の項目を学習)	学習活動
前 期	<input type="checkbox"/> Grammer Review <input type="checkbox"/> Unit 1 Future of jobs in the AI era <input type="checkbox"/> Unit 2 How have you grown as a person in your high school life? <input type="checkbox"/> Unit 3 How do people use different types of media? <input type="checkbox"/> Unit 4 3R approach in order to save the environment <input type="checkbox"/> Unit 5 Moving toward a cashless society <input type="checkbox"/> Unit 6 Are food additives really bad for us?	<input type="checkbox"/> 語句整序問題・部分英作文問題を演習する。 <input type="checkbox"/> AI に将来取って代わられない職業について意見を述べるパラグラフを書くことができる。 <input type="checkbox"/> 自身が成長した経験について描写するパラグラフを書くことができる。 <input type="checkbox"/> ニュースサービスの利用状況のグラフを説明するパラグラフを書くことができる。 <input type="checkbox"/> 環境保護の方法を見つけるために、3Rの特徴を比較するパラグラフを書くことができる。 <input type="checkbox"/> キャッシュレス決済の普及の原因とその利点を示すパラグラフを書くことができる。 <input type="checkbox"/> 食品添加物の摂取について賛否の意見を述べるパラグラフを書くことができる。	英語で表現する活動を通じて、3つの観点について評価をおこなう。
後 期	<input type="checkbox"/> Unit 7 Japanese culture attracting people all over the world <input type="checkbox"/> Unit 8 Will we live in a decarbonized society in the future? <input type="checkbox"/> Unit 9 Reading e-books or printed books? <input type="checkbox"/> Unit 10 The way we live together in the same world	<input type="checkbox"/> 日本文化を多角的に説明しながら紹介するパラグラフを書くことができる <input type="checkbox"/> エネルギー構成比を示すグラフを説明するパラグラフを書くことができる。 <input type="checkbox"/> 電子教科書と紙の教科書を対比するパラグラフを書くことができる。 <input type="checkbox"/> 社会的な差別の問題とその解決方法を示すパラグラフを書くことができる。	

指導と評価の年間計画 GLOBAL ENGLISH III

科目	学年	単位数	教科書	副教材
GLOBAL ENGLISH III (GEIII)	3年	1 (前期)		<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズダム英和辞典(三省堂) ・自主教材

科目の目標	<p>情報を伝えたり、意見交換をしたりするための基本となる知識を身につけるために、会話文やまとまりのある文章を聞き取ったり読んだりすることで、リスニング・スピーキングを中心とした 4 技能 5 領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」（やり取り・発表）、「書くこと」）にわたる英語運用能力をさらに伸長させる。</p>		
学習活動	<p>① 英語で表現された意見や考えを聞き取る活動（リスニング） 日常的な会話や身近なトピックについてのまとまりのある英文を聞き取り、その概要を理解する。</p> <p>② ①の活動（リスニング）で聞き取った内容の理解を深める活動 聞き取った内容を Note-taking や Dictation を通じて、理解を確かなものにする。</p> <p>③ ②の活動で理解した内容を相互に英語で伝える活動（インタラクション） Note-taking を用いた Reproduction や Dictation をもとにした OUTPUT 活動を行う。</p>		
未来開拓力	<p>・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能</p>	<p>・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力</p> <p>・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力</p>	<p>・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力</p> <p>・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力</p> <p>・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力</p>
評価の観点及び 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。</p>	<p>相手の言ったことや質問に、英語で的確かつ簡潔に応答したり、日常的な話題について、英語で情報や考えなどを相手に伝えたりすることができる。</p>	<p>コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、コミュニケーションを図ろうと努力する。ペアワーク・グループワークなどでの活動を通じて、英語で答えようとする姿勢がある。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○定期考査、パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○定期考査、パフォーマンステスト

指導と評価の年間計画 英語研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語研究	3年	1 (後期)		自主教材

科目の目標	「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「論理表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習成果の上に、日常生活などの身近な話題や時事的な内容についての発展的な学習内容・テーマを用い、特にリーディング・ライティングを中心とした5領域にわたる英語運用能力をさらに伸長させる。		
学習活動	<p>(1)テーマ演習</p> <p>①英文構造理解 日常生活などの身近な話題や時事的な内容についての様々なテーマの英文を読み、英語で自分の考えや意見を述べるために、日本語と英語の表現の違いについて分析・理解し、適切な表現ができる能力を養う。 【思考力】【表現力】</p> <p>②文章構成理解 英語の文章の展開方法を学習し、英語で書かれた文章や話された内容を的確に理解し、情報を整理することができる能力を養う。パラグラフの展開方法を学ぶ。 【思考力】【表現力】</p> <p>(2)プレゼンテーション 学んだことをもとに、日常生活などの身近な話題や時事的な内容について自ら課題を設定し、それについて調査し、自分の意見を英語で述べる活動をする。 【教養力】【表現力】</p>		
未来開拓力	<p>・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能</p>	<p>・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力</p> <p>・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力</p>	<p>・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力</p> <p>・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力</p> <p>・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力</p>
評価の観点及び評価規準	<p>知識・技能</p> <p>[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。</p> <p>[技能] 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。</p>
評価方法	<p>○授業態度の観察</p> <p>○調査・発表態度の観察</p> <p>○小テスト</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○調査・発表態度の観察</p> <p>○課題等の提出</p>	<p>○授業態度の観察</p> <p>○調査・発表態度の観察</p> <p>○授業ノート・プリントの点検</p>

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
後 期	(1) テーマ演習	<p>○日常生活などの身近な話題や時事的な内容についての様々なテーマに関する英文を読み、事実や意見を整理・理解し、要約する。</p> <p>○パラグラフの展開方法など英語の文章の展開方法を学習し、英語で書かれた文章や話された内容を的確に理解し、情報を整理することができる能力を養う。</p> <p>○英語で自分の考えや意見を述べるために、日本語と英語の表現の違いについて分析・理解し、適切な表現ができる能力を養う。</p> <p>○ペアやグループで話し合い、考えをまとめ発表する。</p>	<p>単元ごとに、「学習活動」の(1)①②、(2)を音読練習やペアワークを通しておこない、英語で表現する活動を通じて、4つの観点について評価をおこなう。</p>
	(2) プレゼンテーション	<p>○テーマ演習で学んだことをもとに、日常生活などの身近な話題や時事的な内容について自ら課題を設定し、それについて調査し、自分の意見を英語で述べる活動をする。</p>	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 英語精講

科目	学年	単位数	教科書	副教材
英語精講	3年	1 (後期)		<ul style="list-style-type: none"> ・自主教材 ・ウィズダム英和辞典(三省堂)

科目の目標	「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「論理・表現Ⅰ・Ⅱ」の学習成果の上に、日常生活などの身近な話題や時事的な内容についての発展的な学習内容・テーマを用い、特にリーディング・ライティングを中心とした5領域にわたる英語運用能力をさらに伸長させる。		
学習活動	<p>①英文構造理解 日常生活などの身近な話題や時事的な内容についての様々なテーマの英文を読み、英語で自分の考えや意見を述べるために、日本語と英語の表現の違いについて分析・理解し、適切な表現ができる能力を養う。</p> <p>②文章構成理解 英語の文章の展開方法を学習し、英語で書かれた文章や話された内容を的確に理解し、情報を整理することができる能力を養う。パラグラフの展開方法を学ぶ。</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常的な話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	相手の言ったことや質問に、英語で的確かつ簡潔に応答したり、日常的な話題について、英語で情報や考えなどを相手に伝えたりすることができる。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で言語活動に参加することで、コミュニケーションを図ろうと努力する。ペアワーク・グループワークなどでの活動を通じて、英語で答えようとする姿勢がある。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○課題の点検 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○授業ノート・課題の点検 ○定期考査

指導と評価の年間計画 情報研究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
情報研究	3年	1	高等学校 情報 I (数研出版)	進研WINSTEP情報 I, 直前演習 情報 I, Life is Tech! Lesson

科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。		
学習活動	<p>①授業の内容は、教科書を進め基礎基本を学ぶ活動と、実習や問題演習をして原理の理解を深める活動をします。教養力・思考力</p> <p>②授業で指定されたワークや教科書の練習問題、編末問題などは、授業を受けたらすぐに取り組み復習をします。また、小テストなどを通じて振り返り学習を行い、基礎基本を確実に身につける取り組みを確実に行って下さい。思考力・省察力</p> <p>③実習の一部を家庭学習で取り組んでもらう場合があります。そのため、授業ではしっかり聞くとこ、友人と相談しながら進めるところ、自ら主体的に取り組むところを切り替えて、より良い学びに繋がる努力をしましょう。表現力・協働力・志力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身につけているか。	様々な事象を情報とその結び付きの観点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身につけているか。	情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に参画し、その発展に寄与しようとする態度を身につけているか。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○実習への取り組み ○課題への取組 ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○実習への取り組み ○定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業状況の観察 ○実習への取り組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>1. 情報社会の問題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報とメディア ・情報社会における法とセキュリティ ・情報技術が社会に及ぼす影響 <p>2. コミュニケーションと情報デザイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報のデジタル表現 ・コミュニケーション手段の発展と特徴 ・情報デザイン ・プレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見、解決する方法を考える。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについてその意義について理解し、その背景を科学的に捉え、考察する。 ・情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解し、適切かつ効果的な利用と、望ましい情報社会の構築について考察する。 ・メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解し、選択する。 ・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付け表現し、評価し改善する。 	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。</p>
後 期	<p>3. コンピュータとプログラミング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータのしくみ ・プログラミング ・モデル化とシミュレーション <p>4. 情報通信ネットワークとデータの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの仕組み ・データベース ・データの分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解する。 ・目的に応じたアルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し表現のための技能を身に付け、その過程を評価し改善する。 ・社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解し、目的に応じて問題の適切な解決方法を考える。 ・情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解し、目的や状況に応じて情報セキュリティを確保する方法について考える。 ・データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解し、効果的な活用について考える。 ・データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付け、結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善する。 	<p>単元ごとに、「学習活動」の①、②、③をそれぞれに行い、単元を通じて3つの観点について評価を行う。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 人文社会探究

科目	学年	単位数	教科書	副教材
人文社会探究	3年	1	今まで他教科、科目で使用した教科書や資料	

科目の目標	習得した知識や経験を、横断的・総合的に活用し、現代社会の諸問題について探究する学習を通して、思考力・創造力、表現・発信力等の新しい時代に求められる探究力を育成する。		
学習活動	<p>「読む」「書く」「議論する」「書く」の探究サイクルで、現代社会の諸問題を深く学ぶ。</p> <p>(1) 文章の内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握し、自分の考えを論理的かつ説得力のある文章等で表現するための方法についての講義。 [教養力]</p> <p>(2)「読む」 日本語・英語で書かれた、現代社会の諸問題に関する小論文や評論文、時事問題に関する新聞記事などを題材に、読むポイントを学ぶ活動。 [教養力・思考力]</p> <p>(3)「書く」 課題に対する自分の考えを整理し、論理的かつ説得力のある文章等で表現する活動。 [思考力・表現力]</p> <p>(4)「議論する」 自分の文章等を他人のものと比較し、議論することを通して、多面的で批判的な思考力を養う共同学習。 [思考力・省察力・協働力]</p> <p>(5)「書く」 (3)(4)の活動をもとに自分の文章をより論理的かつ説得力のある文章等で表現する活動。 [表現力・省察力]</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の諸問題の中から選び与えられた課題に対して、基本的な知識をもっている。 ・与えられた課題を、要旨や要点を把握しながら読むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた課題に対して、自分の立場を明確にし、考察することができる。 ・自分の考えを、論理的かつ説得力のある文章で表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な角度から検証し、他者の意見を参考にすることで、与えられた課題に対する自分の考えを整理することができる。 ・他人と議論することを通して、自分の知識を広げ、思考力や表現力を向上させることができる。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業態度の観察 ○発表態度の観察 ○提出課題の点検

年間指導計画

月	学習内容	学習のねらい	学習活動
4 ・ 5 月	基本技能の学習	<input type="checkbox"/> 小論文と作文の違いが説明できる。 <input type="checkbox"/> 小論文の基本的構成を理解する。 <input type="checkbox"/> 説得力のある小論文を作成する方法を理解する。 <input type="checkbox"/> 小論文を書く基本技能を理解する。	○実習では「学習活動」の(2)～(5)をそれぞれおこない、3つの観点について評価をおこなう。
6 ・ 7 月	実習（課題①） (1)「読む」 (2)「書く」 (3)「議論する」 (4)「書く」	(1)与えられた題材について <input type="checkbox"/> 要旨や要点を把握しながら読むことができる (2)(1)の題材に対する自分の考えについて <input type="checkbox"/> 論理的な文章で表現できる。 <input type="checkbox"/> 説得力のある文章で表現できる。 (3)(2)の文章と他者の文章の比較について <input type="checkbox"/> 相違点を指摘できる。 <input type="checkbox"/> 相違点を次の視点で分析できる。 ・論理的な違い ・説得力の違い <input type="checkbox"/> 相違点について論理的に議論できる。 (4)自分の文章の修正について <input type="checkbox"/> 論理的な部分を修正できる。 <input type="checkbox"/> 説得力の部分で修正できる。	○扱う題材は、現代社会の諸問題や時事問題に関する評論文や新聞記事等の中から、次の視点で選ばれたものである。 (1)教科の枠を超えた、複合的な視点に立って思考できる課題 (2)他の教科・科目で学習して得た様々な知識を活用して答えを導くことができる課題 ○様々な形式の課題を扱うので、それぞれに適した対応を学ぶ。 例:テーマ型、課題文型、データ型、融合型、複数課題型
8 月	志望理由書の作成	自分の志について <input type="checkbox"/> 論理的な文章で表現できる。 <input type="checkbox"/> 説得力のある文章で表現できる。	
後 期	実習（課題②～⑥） (1)「読む」 (2)「書く」 (3)「議論する」 (4)「書く」	課題①と同じねらいで取り組む。	

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 自然科学探究Ⅱ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
自然科学探究Ⅱ	3年	1		岡山県高等学校理科協議会発行の実験書

科目の目標	習得した知識や経験を、横断的・総合的に活用し、自然科学分野の諸問題について探究する学習を通して、思考力・創造力、表現・発信力等の新しい時代に求められる探究力を育成する。		
学習活動	<p>「課題設定」「観察・実験」「成果発表」の探究サイクルで、自然科学の諸問題を深く学ぶ。</p> <p>(1)「リインテグレーション&がイヴンス」 教養力・思考力 既習の原理や法則についてのまとめ、対象とする事象について探究するために必要な知識及び技能についての講義等。</p> <p>(2)「課題設定」 思考力・省察力・協働力 事象を観察し、課題を把握・設定する活動。</p> <p>(3)「仮説設定と計画立案」 教養力・思考力・省察力・協働力 習得した知識や経験を活用し、仮説を設定、検証計画をプランニングする活動。</p> <p>(4)「観察・実験」 思考力・表現力・省察力・協働力 観察・実験等とその結果の整理、考察、結論の導出の活動。</p> <p>(5)「成果発表」 表現力・省察力・協働力・志力 (4)の成果を共有・検証する、発表・議論などの活動。</p> <p>※学習の取り組み方のポイント</p> <p>①【脳をアクティブに】 講義型授業では、先生の説明を自分なりにまとめ、ノートやプリントなどにメモをとりましょう。</p> <p>②【わくわくを実感】 観察実験型授業では、主体的に取り組むことが大切です。班の人と協力して準備・実験・記録・データ処理・整理整頓を行いましょう。</p> <p>③【わかったを実感】 対話型授業では、考えを自分なりに表現しましょう。ペアワークなどでは、相手の考えを参考に理解を深めよう。</p>		
未来開拓力	教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	思考・判断・表現 自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	主体的に学習に取り組む態度 自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
評価方法	○課題への取組 ○定期考査 ○実験レポート	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○定期考査	○授業状況の観察 ○ノート、授業プリント ○課題への取組

年間指導計画

学 期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
前 期 ・ 後 期	テーマ1 （化学基礎・化学の分野のうち、一 定の範囲の中から、探究する事象 を決めたテーマ）	○必要な知識及び技能についての講義	単元ごとに前述の「学習 活動」の(1)～(5)をそれ ぞれおこない、単元を通じ て3つの観点について評 価をおこなう。
		○課題を設定、検証可能性の吟味	
		○課題解決に至る仮説を設定	
		○観察・実験の計画を立案	
		○観察・実験	
		○結果を考察、結論を導出	
		○考察等の成果を発表、振り返り	
	テーマ2 （化学基礎・化学の分野のうち、一 定の範囲の中から、探究する事象 を決めたテーマ）	○必要な知識及び技能についての講義	単元ごとに前述の「学習 活動」の(1)～(5)をそれ ぞれおこない、単元を通じ て3つの観点について評 価をおこなう。
		○課題を設定、検証可能性の吟味	
○課題解決に至る仮説を設定			
○観察・実験の計画を立案			
○観察・実験			
○結果を考察、結論を導出			
テーマ3 （化学基礎・化学の分野のうち、一 定の範囲の中から、探究する事象 を決めたテーマ）	○必要な知識及び技能についての講義	単元ごとに前述の「学習 活動」の(1)～(5)をそれ ぞれおこない、単元を通じ て3つの観点について評 価をおこなう。	
	○課題を設定、検証可能性の吟味		
	○課題解決に至る仮説を設定		
	○観察・実験の計画を立案		
	○観察・実験		
	○結果を考察、結論を導出		
	○考察等の成果を発表、振り返り		

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 保育基礎

科目	学年	単位数	教科書	
保育基礎	3	2	保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う保育の世界へ（教育図書）	

科目の目標	家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 保育の意義や方法、子供の発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 子供を取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。		
学習活動	・保育のさまざまな分野が主体的に学べるよう題材を設定しています。授業時間の約半分が講義、残りが実習・演習などの実践的・体験的な学習です。 教養力 思考力 ・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。 思考力 表現力 ※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。 協働力 省察力 ※実際に乳幼児に接したり、保育者の話を聞いたりすることは授業内容に理解を深めてくれます。 実習には意識を持って取り組み、ボランティアなどには積極的に参加しましょう。 志力 ※日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 教養力		
未来開拓力	・ 教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・ 思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・ 表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・ 協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・ 志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・ 省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識を身に付けている。	子どもを生き育てることや、家族の役割や地域の子育て支援などについて課題を見だし、思考を深め、適切に判断し、創意工夫し表現する能力を身に付けている。	子どもの発達や子育て支援について関心を持ち、実際に子どもと関わろうとする意欲と態度を身に付けている。
評価方法	○定期考査 ○授業状況の観察 ○作品	○授業状況の観察 ○ワークシート（考察） ○実習・演習への取組 ○発表 ○定期考査	○授業状況の観察 ○ワークシート（提出） ○実習・課題への取組

指導と評価の年間計画 栄養

科目	学年	単位数	教科書	副教材
栄養	3年	2	フードデザイン (実教出版)	栄養 (実教出版)

科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄養、労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 食生活の現状から栄養に関する課題を発見し、栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
学習活動	<p>・今まで学習した食分野の基礎を土台により専門的に学ぶよう題材を設定しています。授業時間の約半分が講義、半分が実習・演習などの実践的・体験的な学習です。 教養力 思考力</p> <p>・主にワークシートを使って学習します。ファイルに保存し、提出をします。 思考力 表現力</p> <p>※友達とも積極的に意見交換をしましょう。人の価値観や様々なライフスタイルに関心を持つことも大切です。 協働力 省察力</p> <p>※実際に家庭で調理をしたり、日本の食を取り巻く現状を調べたり聞いたりすることは授業内容に理解を深めてくれます。 志力</p> <p>※日頃より、新聞・テレビニュースにおいて、社会的出来事に関心を持っておきましょう。 教養力</p>		
未来開拓力	<p>・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能</p>	<p>・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力</p> <p>・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力</p>	<p>・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力</p> <p>・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力</p> <p>・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力</p>
評価の観点及び評価規準	<p style="text-align: center;">知識・技能</p> <p>栄養素の機能・消化吸収について知識を持つ。ライフステージや病態時の栄養について理解する。</p>	<p style="text-align: center;">思考・判断・表現</p> <p>現代の食生活や、食環境が大きく変化している現状に課題を見つけ、思考を深める。また、考えをまとめて判断ができる。</p>	<p style="text-align: center;">主体的に学習に取り組む態度</p> <p>ライフステージや病態時における食の役割に関心を持ち、作ることから食べるころまでを総合的にとらえて計画する意欲と実践的な態度を身につけている。</p>
評価方法	<p>○定期考査</p> <p>○授業状況の観察</p> <p>○実習作品</p>	<p>○授業状況の観察</p> <p>○ワークシート（考察）</p> <p>○実習・実験への取組</p> <p>○発表</p> <p>○定期考査</p>	<p>○授業状況の観察</p> <p>○ワークシート（提出）</p> <p>○実習・課題への取組</p>

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	第 1 章 栄養とは 第 2 章 栄養素の機能と代謝 ①炭水化物 ②脂質 ③たんぱく質 ④ビタミン ⑤ミネラル ⑥その他の成分 第 3 章 消化と吸収 ①食欲 ②消化と吸収のしくみ 第 4 章 エネルギー代謝と 食事摂取基準 ①エネルギー代謝 ②食事摂取基準 第 5 章 栄養状態の評価 ①栄養状態の評価と方法 ②集団の栄養状態の評価	<input type="checkbox"/> 栄養と栄養素、人体の構成成分と栄養素、食物の摂取、食物の消化と吸収について理解する。 <input type="checkbox"/> 各種栄養素の機能と代謝について理解し、栄養素などの過不足の視点から課題を発見し、その解決に向けて考える。 <input type="checkbox"/> エネルギー代謝や食事摂取基準について理解し、健康の保持増進に主体的に取り組む。 <input type="checkbox"/> 食事摂取基準と栄養状態から課題を発見し、その解決に向けて考える	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習・実験をおこない、4つの観点についての評価をおこなう。
後 期	第 6 章 ライフステージ・ ライフスタイルと栄養 ①乳幼児期 ②青少年期 ③成人期 ④高齢期 ⑤妊娠・授乳期 ⑥労働・スポーツと栄養 第 7 章 病態と栄養 ①栄養障害 ②病態時の栄養 ③食事療法 第 8 章 栄養と調理 ①調理による栄養成分の変化 ②調理と消化吸収率 ③栄養面から見た望ましい献立 第 9 章 食生活の展望と栄養増 進 ①日本人の栄養摂取 ②食生活と栄養増進	<input type="checkbox"/> ライフステージにおける身体的・生理的特徴と各期の栄養の特徴について理解する。 <input type="checkbox"/> ライフステージにおける栄養の課題を発見し、その解決に向けて考える。 <input type="checkbox"/> 生活活動強度の軽重や活動時間の長短による生理的特徴を踏まえ、それに応じた栄養と食事構成を考える。 <input type="checkbox"/> エネルギーや栄養素の過不足による主な病気と食事療法、病態に応じた栄養と食事構成について理解し、健康の保持増進に主体的に取り組める。 <input type="checkbox"/> 各ライフステージ、労働、スポーツ、病態時に適した献立を考え、栄養の摂取・消化吸収のよい調理ができる。	テーマごとに、教科書、ワークシートを活用しながらの学習、グループでの実習・実験をおこない、4つの観点についての評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 スポーツ概論

科目	学年	単位数	教科書	副教材
スポーツ概論	3年	2		

科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1) スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。</p> <p>(2) スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組む態度を養う。</p>		
学習活動	<p>①スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解し、スポーツの推進や発展に必要な技能を身に付けます。教養力・思考力・表現力・志力</p> <p>②スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養います。思考力・表現力・省察力</p> <p>③球技大会や体育大会の企画・運営を通して公正な態度や、互いに協力して責任を果たすなどの態度を身に付けます。また、健康・安全を確保して大会運営をすることができる能力を身に付けます。思考力・表現力・省察力・協働力</p>		
未来開拓力	<ul style="list-style-type: none"> ・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力：自らの行動を振り返り改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>社会の変化に伴うスポーツの意義や必要性、各種の運動の特性に関心を持ち、生涯にわたってスポーツに親しめるように進んで学習に取り組もうとする。</p> <p>運動技能の構造と運動の学び方について関心をもち、技能の上達を目指して進んで学習に取り組もうとする。</p>	<p>スポーツの意義、必要性、文化的特徴をふまえて生涯スポーツへのかかわり方について、整理したりしている。</p> <p>運動技能の構造を整理したり、自分に適した運動及び学び方を見つめたりしている。</p>	<p>スポーツの意義や必要性、生涯スポーツへのかかわり方を知っている。</p> <p>運動種目の歴史的背景や運動技能の構造等を知っている。</p> <p>体力の向上を図る運動の構成や運動プログラムを作成する方法を知っている。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○確認テスト ○授業状況の観察 ○レポートへの取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○確認テスト ○授業状況の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ○確認テスト ○実習、レポートへの取り組み

年間指導計画

学 期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<p>(1)スポーツの歴史・文化的特性と 現代的特徴</p> <p>(2)スポーツの効果的な学習の仕方</p> <p>(5)スポーツの企画・運営及び管理</p>	<p><input type="checkbox"/>スポーツの歴史と発展について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの技術や戦術、ルールが用具の改良やメディアの発達に伴い変化し続けていることについて理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>オリンピックの意義やドーピングについて理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>現代のスポーツが経済的側面に大きく影響を及ぼしていることを理解する</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの技術と技能、技術の習得の仕方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの上達過程や練習方法、課題の設定の方法について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの技能と体力の関連や高め方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツを行う際の安全性の確保について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツ大会の企画の仕方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツ大会の実施に向けたルールの決定や審判の仕方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツ大会の運営の方法について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>球技大会や体育大会の企画、運営を行う。</p>	<p>講義型授業や実習、レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>
後 期	<p>(3)豊かなスポーツライフの設計</p> <p>(4)スポーツの指導法と安全</p> <p>(5)スポーツの企画・運営及び管理</p>	<p><input type="checkbox"/>ライフステージにおけるスポーツの多様な楽しみ方や関わり方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの振興は、様々な施設や組織、人々の支援や参画によって支えられていることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツを行う際は、環境への配慮など、持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動が求められていることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの一般的な指導法について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツの指導法は参加動機に応じて工夫する必要があることを理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>スポーツ参加者の健康や安全の確保の仕方について理解する。</p> <p><input type="checkbox"/>球技大会の企画・運営を行う。</p>	<p>講義型授業や実習、レポート作成・発表を行う課題学習を行い、3つの観点について評価を行う。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 スポーツⅡ

科目	学年	単位数	教科書	副教材
スポーツⅡ	3年	2	ステップアップ高校スポーツ (大修館)	現代高等保健体育 (大修館)

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。 (1) 球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付ける。 (2) 球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯を通してスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与する態度を養う。		
学習活動	①ゴルフの合理的、計画的な実践を通して、専門的な技術や高度な技能を高め課題の解決に向けて取り組むことにより、ゴルフのもつ特性や魅力に触れ、楽しさや喜びを深うためのポイントを身に付けます。 教養力・思考力・省察力 ②ゴルフの学習を通して、生涯を通してのスポーツ振興にかかわることができる資質や能力を身に付けます。 教養力・思考力・省察力・志力 ③競技会の実施や練習を通して、公正な態度や、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たす態度を身に付けます。また、健康・安全を確保して運動することができる能力や態度を身に付けます。 思考力・省察力・表現力・協働力		
未来開拓力	・教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力 ・省察力：自らの行動を振り返り改善し、前に踏み出す力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自分の能力に応じた技能で、練習や競技をすることができる。 動きのポイントを身につけ、その技能を高め、競技したり記録を向上させたりすることができる。 種目の特性や技術の構造、練習方法、学習の進め方を知っている。 ルールや競技方法、審判法及び競技会の企画や運営方法を知っている。	自分の能力に応じた目標記録や練習課題を設定している。 課題解決のための合理的な練習方法を工夫している。 自分の能力を最大限に発揮できるように競争相手を選んだり競技の方法を工夫したりしている。 グループノートの記入を通して確実に振り返りを行うことができ、さらに次の目当てを設定することができる。	技能習得に対して意欲的に取り組み、楽しさや喜びを味わおうとする。 自分の役目を果たし、互いに教え合い、協力して活動しようとしている。 体の調子を確認し合ったり、活動場所や器具の安全を確かめたりするなど、健康・安全に留意しようとする。
	○パフォーマンステスト	○グループ活動の観察	○授業状況の観察

評価方法	○授業状況の観察 ○知識理解度テスト	○グループノート ○振り返りシート	
------	-----------------------	----------------------	--

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動
前期	オリエンテーション I ターゲット型球技 ・ランドゴルフ ・ターゲットバードゴルフ II ターゲット型球技 ・ゴルフ	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。 <input type="checkbox"/> 授業ノートを用い、トレーニングの原則に沿った綿密な計画を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、活動することができる。 <input type="checkbox"/> 専門的な技術の習得や高度な技能の上達を目指して、意欲的に学習（練習）に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	年間を通して、「学習活動」の①、②、③をおこない、3つの観点について評価をおこなう。
後期	II ターゲット型球技 ・ゴルフ	<input type="checkbox"/> 集合時間を守ることができる。 <input type="checkbox"/> 規定の服装で活動することができる。 <input type="checkbox"/> 用具の準備ができる。 <input type="checkbox"/> 正しい知識を身につけることができる。 <input type="checkbox"/> 授業ノートを用い、トレーニングの原則に沿った綿密な計画を立てることができる。 <input type="checkbox"/> 計画に沿って、活動することができる。 <input type="checkbox"/> 専門的な技術の習得や高度な技能の上達を目指して、意欲的に学習（練習）に取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 健康面や安全面に配慮して、取り組むことができる。	「学習活動」の①をおこない、3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 音楽理論

科目	学年	単位数	教科書	副教材
音楽理論	3年	2	MOUSA 2 (教育芸術社)	なし

科目の目標	<p>音楽理論の学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 音楽に関する基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3) 音楽理論を表現や鑑賞に生かそうとする態度を養う。</p>		
学習活動	<p>・音楽方面での進学希望者を対象とした講座です。実技試験に対応した、副専門的な内容（新曲視唱・聴音・楽典）を学習します。 教養力・思考力・表現力・省察力・志力</p> <p>・表現（歌唱・器楽・創作）と鑑賞の分野から、受講者に応じた学習活動を行います。 教養力・思考力・表現力・省察力・志力</p>		
未来開拓力	<p>教養力：幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能</p>	<p>思考力：論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 表現力：思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力</p>	<p>協働力：多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 省察力：自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 志力：志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力</p>
評価の観点及び評価規準	<p>知識・技能</p> <p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。</p>	<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。</p>
評価方法	<p>○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート</p>	<p>○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート</p>	<p>○授業状況の観察 ○実技 ○ワークシート</p>

年間指導計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動（評価方法）
右記の内容を年間を通して学習する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> ソルフェージュ 新曲視唱 日本歌曲 イタリア歌曲 ■ 器楽 <ul style="list-style-type: none"> 選択曲 ■ 創作 <ul style="list-style-type: none"> 楽典 聴音 ■ 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> 西洋音楽史 日本音楽史 様々な時代・様式の楽曲演奏者による表現の比較 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 各種の音程を正しく把握し、美しい発声で歌唱する。 <input type="checkbox"/> 新曲視唱の学習を通してフレージングなど根拠ある表現力を高め、各専門領域の表現にいかす。 <input type="checkbox"/> 言葉と音楽の関わりをもたせ、美しい表現を工夫する。 <input type="checkbox"/> 専門領域の楽器(または声楽)による表現を工夫し、確かな技術をもって演奏する。 <input type="checkbox"/> 音楽を形づくっている要素を理解し、鑑賞・歌唱・器楽の学習に活用する。 <input type="checkbox"/> 楽譜の仕組みを理解し、正しい記譜の仕方を学ぶ。 <input type="checkbox"/> 旋律および和声の聴き取りを行い、音高やリズムに対する感覚を養う。 <input type="checkbox"/> 音楽の歴史を学び、歴史的背景や作曲家などについて理解した上で、表現活動に繋げることができる。 <input type="checkbox"/> 各時代や楽曲様式を特徴付ける楽曲を鑑賞し、理解を深める。また、客観的に鑑賞する力を高める。 	<p>歌唱と器楽では、様々な編成での表現に取り組む。</p> <p>作品の創作にも取り組む。年間を通じて、3つの観点について評価をおこなう。</p>

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。

指導と評価の年間計画 素描

科目	学年	単位数	教科書	副教材
素描	3年	2	高校生の美術 2 (日本文教出版)	なし

科目の目標	素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。 (2) 対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。 (3) 造形表現を追求する態度を養う。		
学習活動	・進路に必要な実技を身に付ける科目です。 ・学習内容を一体的・総合的に扱ったり、関連付けて扱ったりするなど柔軟に学びます。 教養力・思考力・表現力・協働力・省察力・志力		
未来開拓力	・教養力 幅広い教養と課題発見・解決のための知識・技能	・思考力 論理的に考え、批判的に掘り下げ、創造する力 ・表現力 思考・判断の結果や経過をわかりやすく伝える力	・協働力 多様な他者とコミュニケーションをとり協力する力 ・省察力 自らの行動を振り返り、改善し、前に踏み出す力 ・志力 志高く挑戦し、主体的に人生や社会の未来を拓く力
評価の観点及び評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品	○授業状況の観察 ○ワークシート ○提出作品

年間指導計画

学期	学 習 内 容	学習のねらい	学習活動
前 期	<ul style="list-style-type: none"> ■デッサン1 ・幾何形体 ■デッサン2 ・手 ■デッサン3 ・自画像 ■デッサン4 ・石膏像 	<input type="checkbox"/> 立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。（学習内容にかかわらず共通）	様々な創作活動をおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。
後 期	<ul style="list-style-type: none"> ■進路により課題（石膏デッサン、静物デッサン、構成デッサンなど）を選択する 	<input type="checkbox"/> 立体感、質感表現の技能が高まり、空間や構図を意識して描写することができる。（学習内容にかかわらず共通）	様々な創作活動をおこない、単元を通じて3つの観点について評価をおこなう。

*この計画は予定であり、途中で変更することもあります。その際には連絡します。